

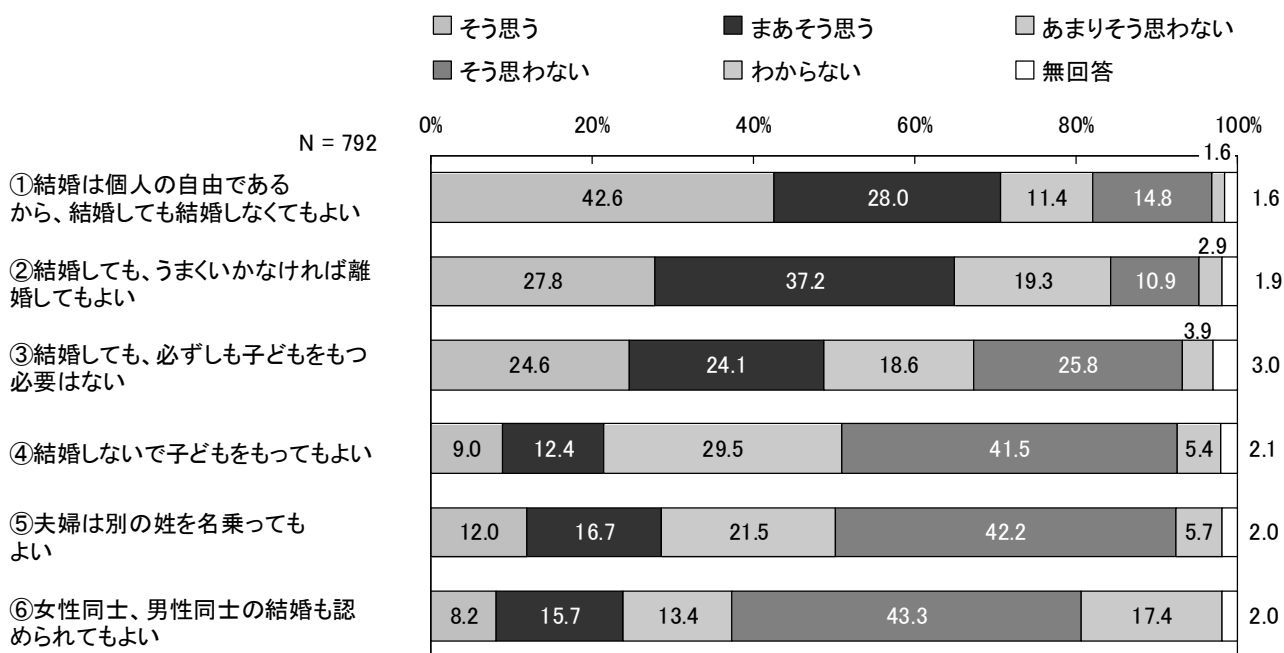
3 結婚観や家庭生活について

(1) 結婚や家庭についての考え

問9 結婚や家庭について、あなたの考えをお聴かせください。(各項目ごと1つに○印)

結婚や家庭についての考え (全体)

結婚や家庭についての考え方では、①結婚は個人の自由であるから、結婚しても結婚しなくてもよい、②結婚しても、うまくいかなければ離婚してもよいで「そう思う」と「まあそう思う」をあわせた賛同する人の割合が高く、6割を超えています。一方、④結婚しないで子どもをもってもよい、⑤夫婦は別の姓を名乗ってもよい、⑥女性同士、男性同士の結婚も認められてもよいでは「あまりそう思わない」と「そう思わない」をあわせた賛同しない人の割合が高く、特に④結婚しないで子どもをもってもよいで7割を超えています。



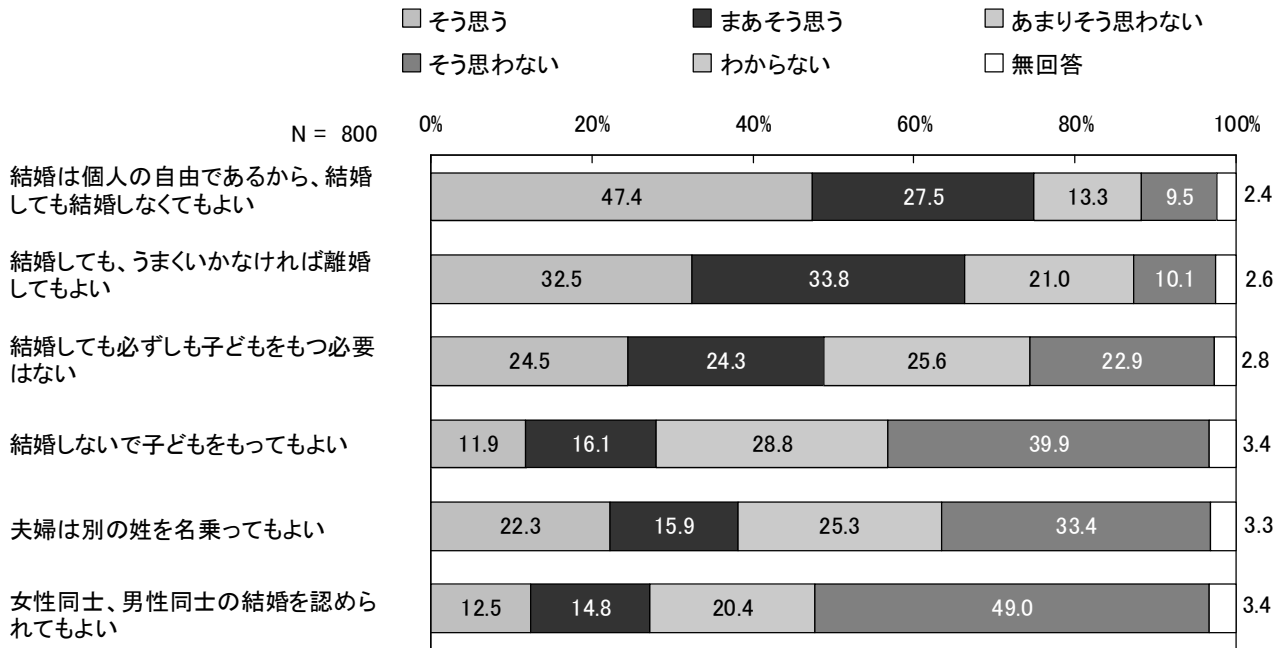
結婚や家庭についての考え【平成17年度調査結果・国の世論調査との比較】

平成17年度調査結果と比較すると、「結婚は個人の自由であるから、結婚しても結婚しなくてもよい」「結婚しないで子どもをもってもよい」「夫婦は別の姓を名乗ってもよい」で賛同する人の割合が低くなっています。

国の世論調査結果と比較すると、国に比べ本市は「結婚しても、うまくいかなければ離婚してもよい」「結婚しても、必ずしも子どもをもつ必要はない」で賛同する人の割合が高くなっています。

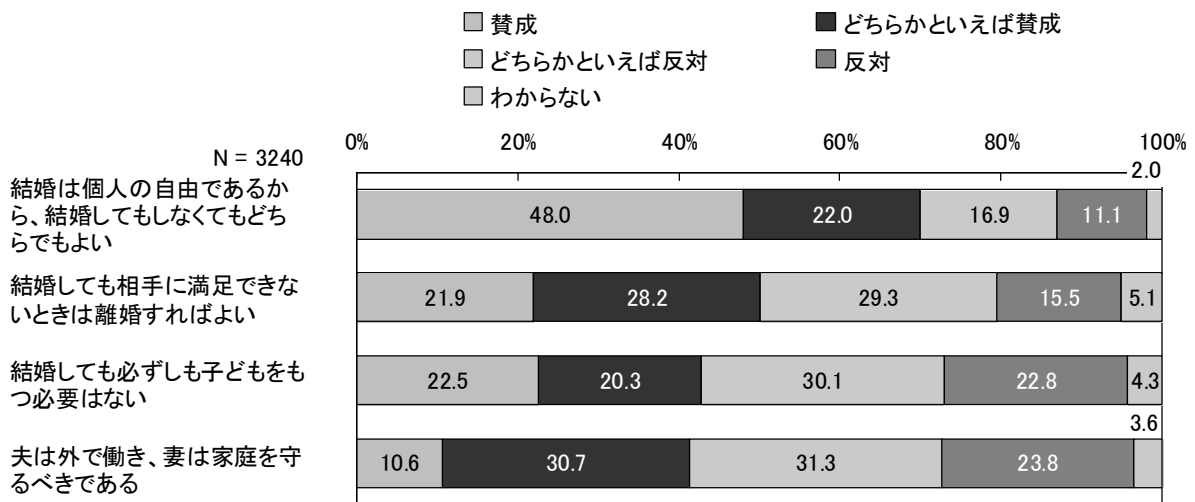
参 考

結婚や家庭についての考え【平成 17 年度調査結果】



参 考

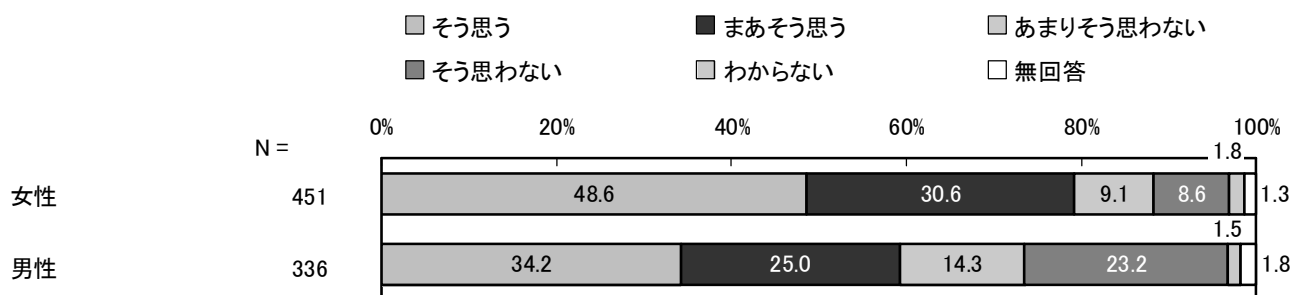
結婚や家庭についての考え【国（男女共同参画社会に関する世論調査 平成 21 年）】



①結婚は個人の自由であるから、結婚しても結婚しなくてもよい

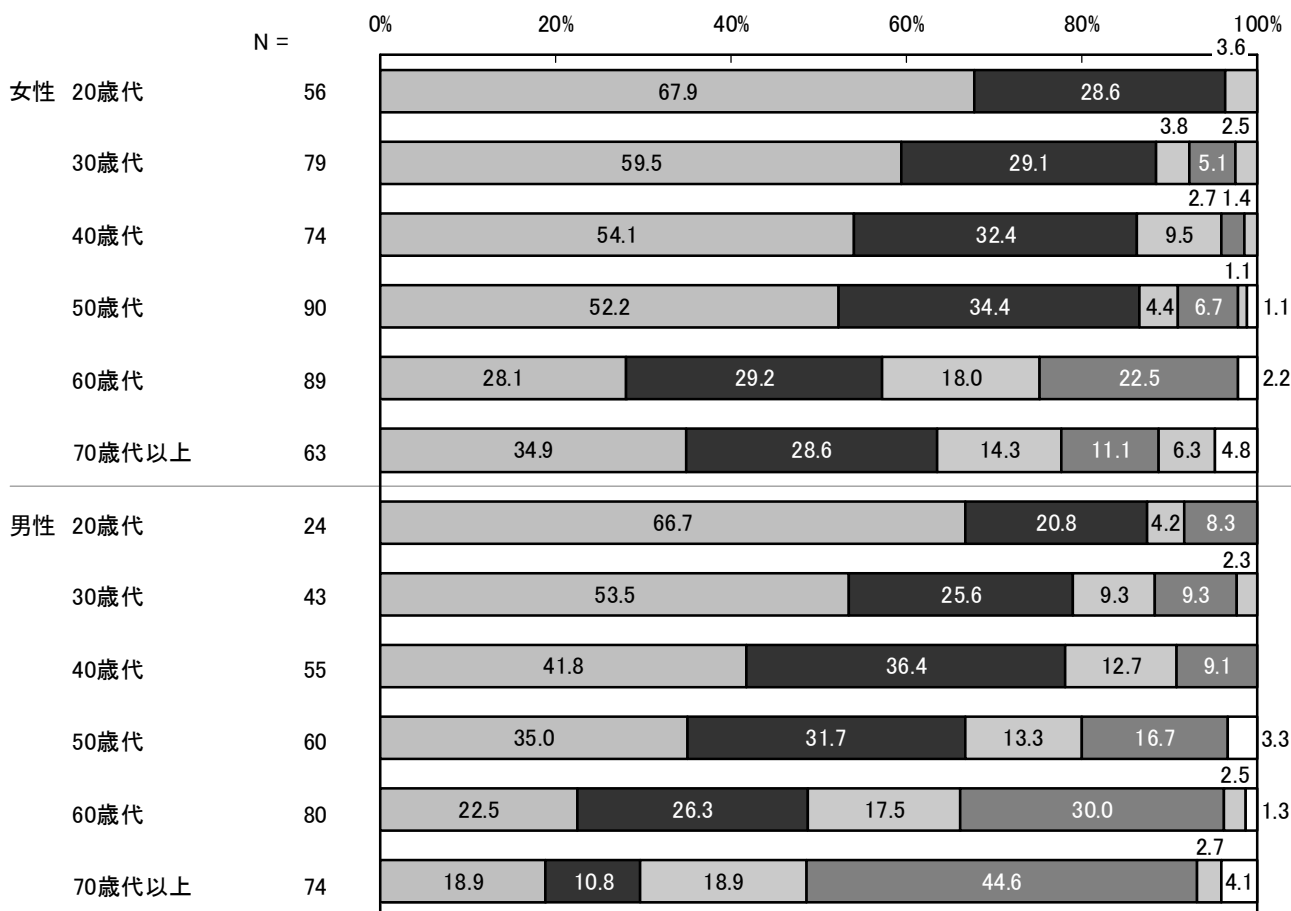
(性別)

「結婚は個人の自由であるから、結婚しても結婚しなくてもよい」という考え方について、性別で比較すると、女性で賛同する人の割合が高く、約8割となっています。



(性・年代別)

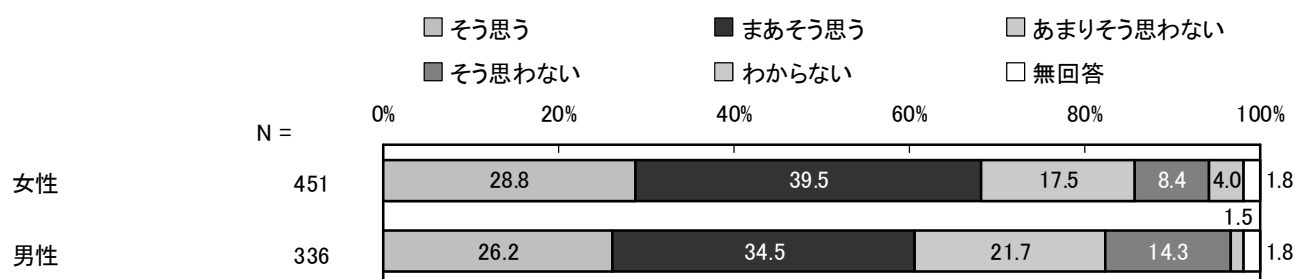
性・年代別でみると、男女とも年代が高くなるにつれ賛同する人の割合が低くなる傾向にあり、特に男性の70歳代以上で約3割となっています。また、他の年代に比べ女性の60歳代、男性の60歳代、70歳代以上で賛同しない人の割合が高くなっています。



②結婚しても、うまくいかなければ離婚してもよい

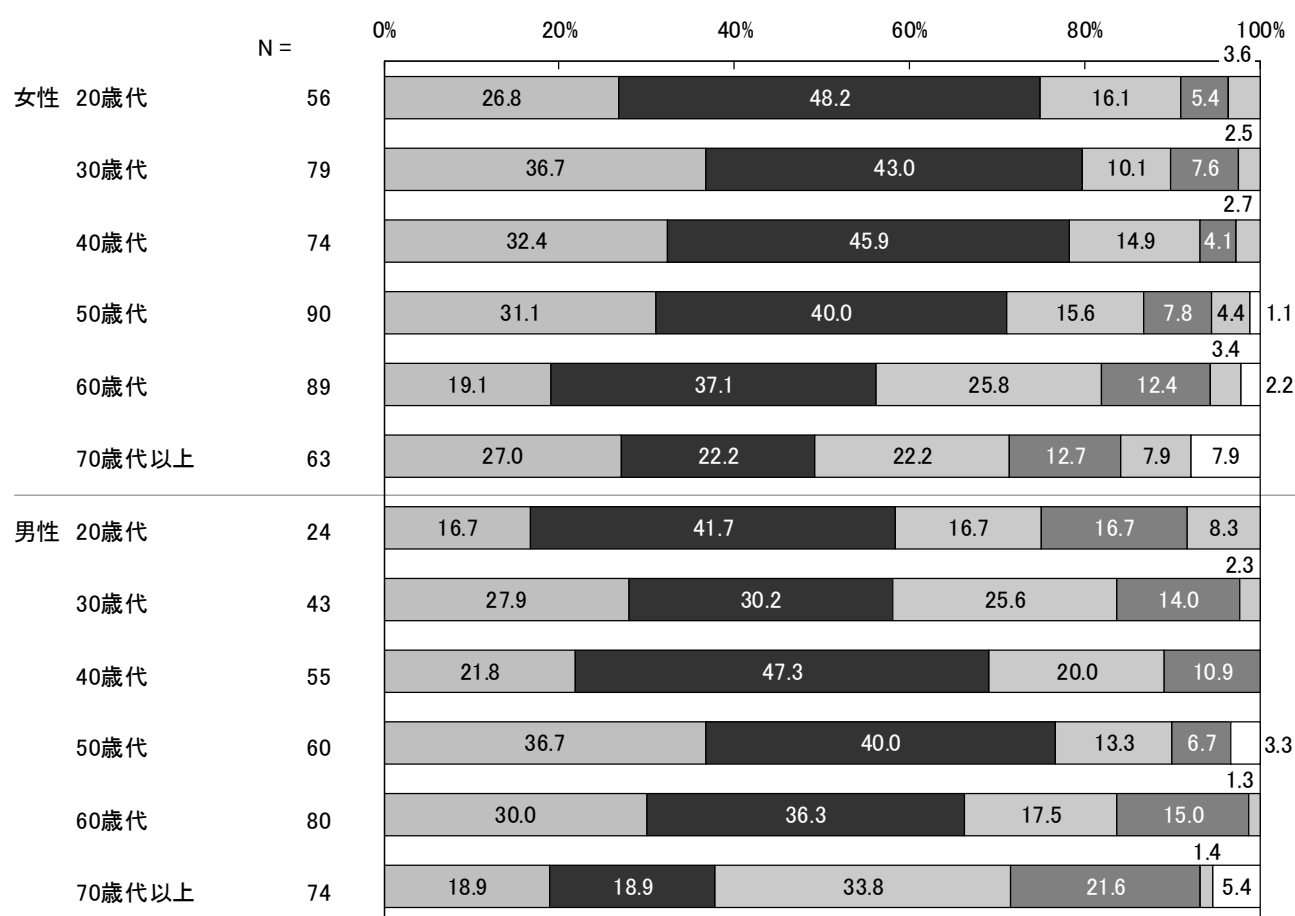
(性別)

「結婚しても、うまくいかなければ離婚してもよい」という考え方について、性別で比較すると、女性で賛同する人の割合が高く、約7割となっています。



(性・年代別)

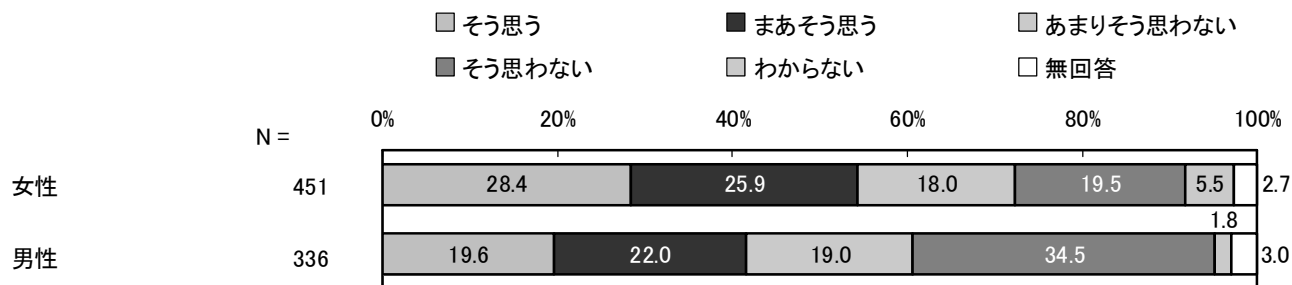
性・年代別でみると、他の年代に比べ女性の20歳代、30歳代、40歳代、男性の50歳代で賛同する人の割合が高く、約8割となっています。一方、他の年代に比べ男性の70歳以上で賛同しない人の割合が高く、約6割となっています。



③結婚しても、必ずしも子どもをもつ必要はない

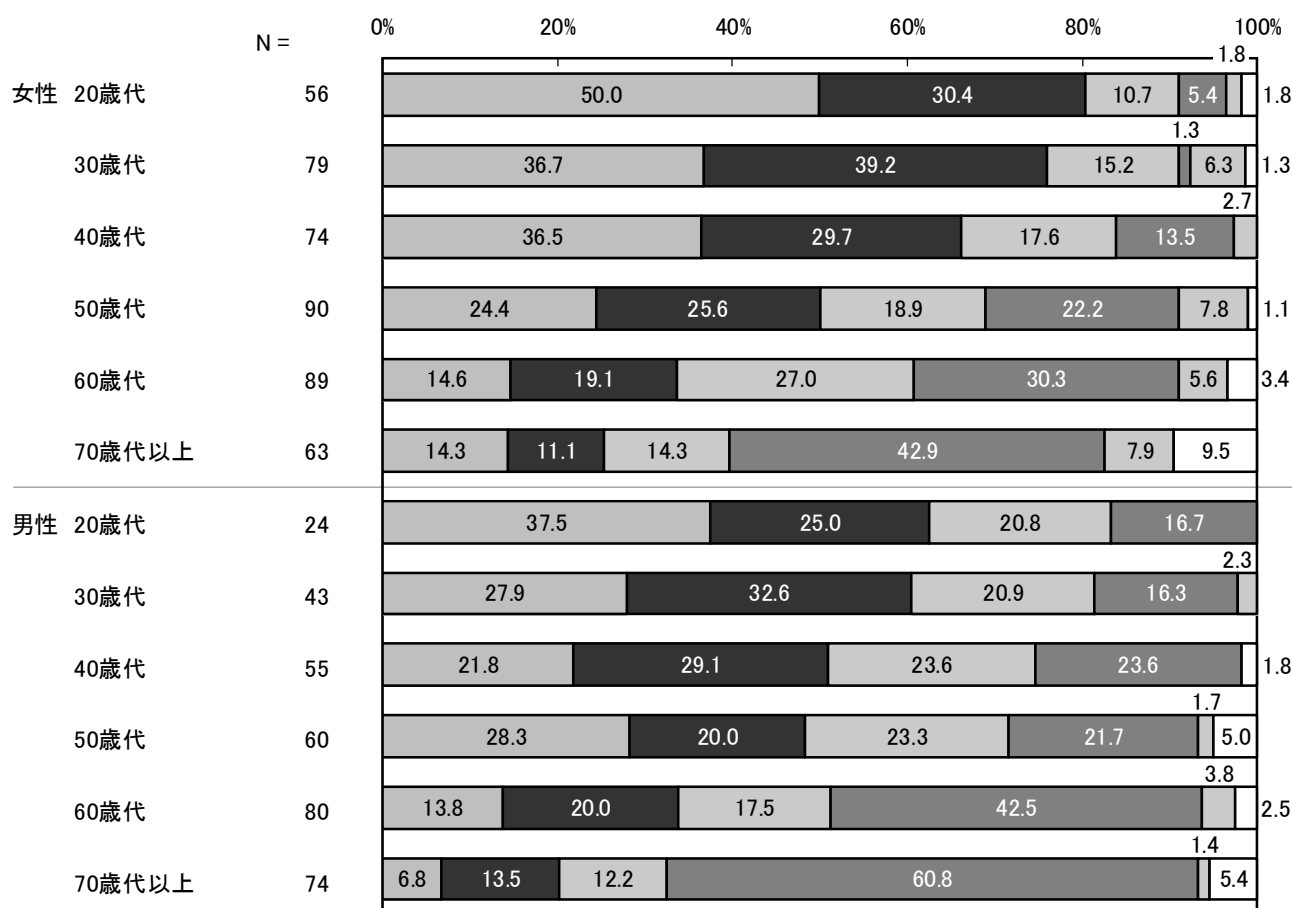
(性別)

「結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」という考え方について、性別で比較すると、女性で賛同する人の割合が高く、約5割となっています。



(性・年代別)

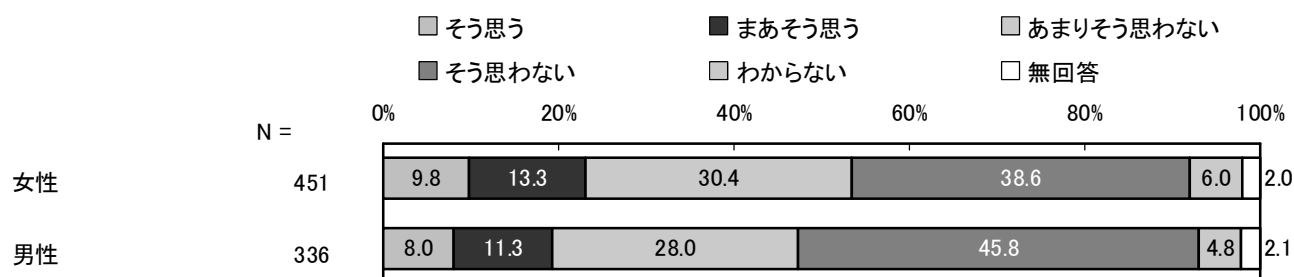
性・年代別で見ると、男女とも年代が高くなるにつれ賛同する人の割合が低くなっており、特に男性の70歳代以上で約2割となっています。



④結婚しないで子どもをもってもよい

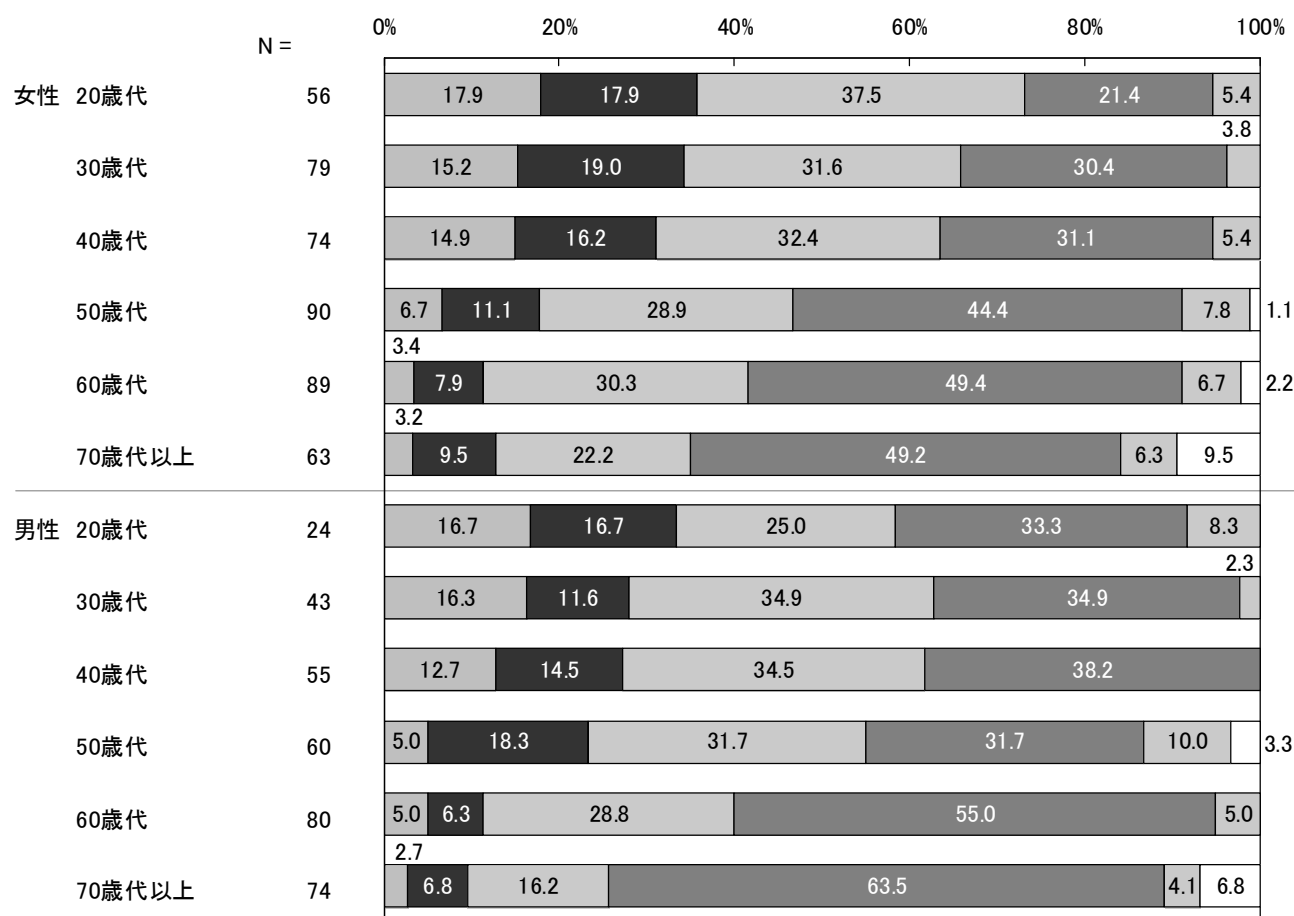
(性別)

「結婚しないで子どもをもってもよい」という考え方について、性別で比較すると、男性で賛同しない人の割合が高く、7割を超えています。



(性・年代別)

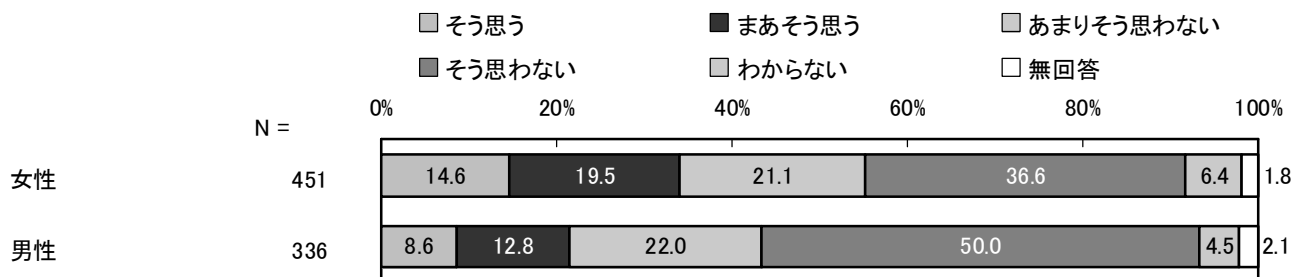
性・年代別で見ると、他の年代に比べ男女とも20歳代から40歳代で賛同する人の割合が高く、約3割以上となっています。一方、他の年代に比べ女性の60歳代、男性の60歳代、70歳代以上で賛同しない人の割合が高く、約8割となっています。



⑤夫婦は別の姓を名乗ってもよい

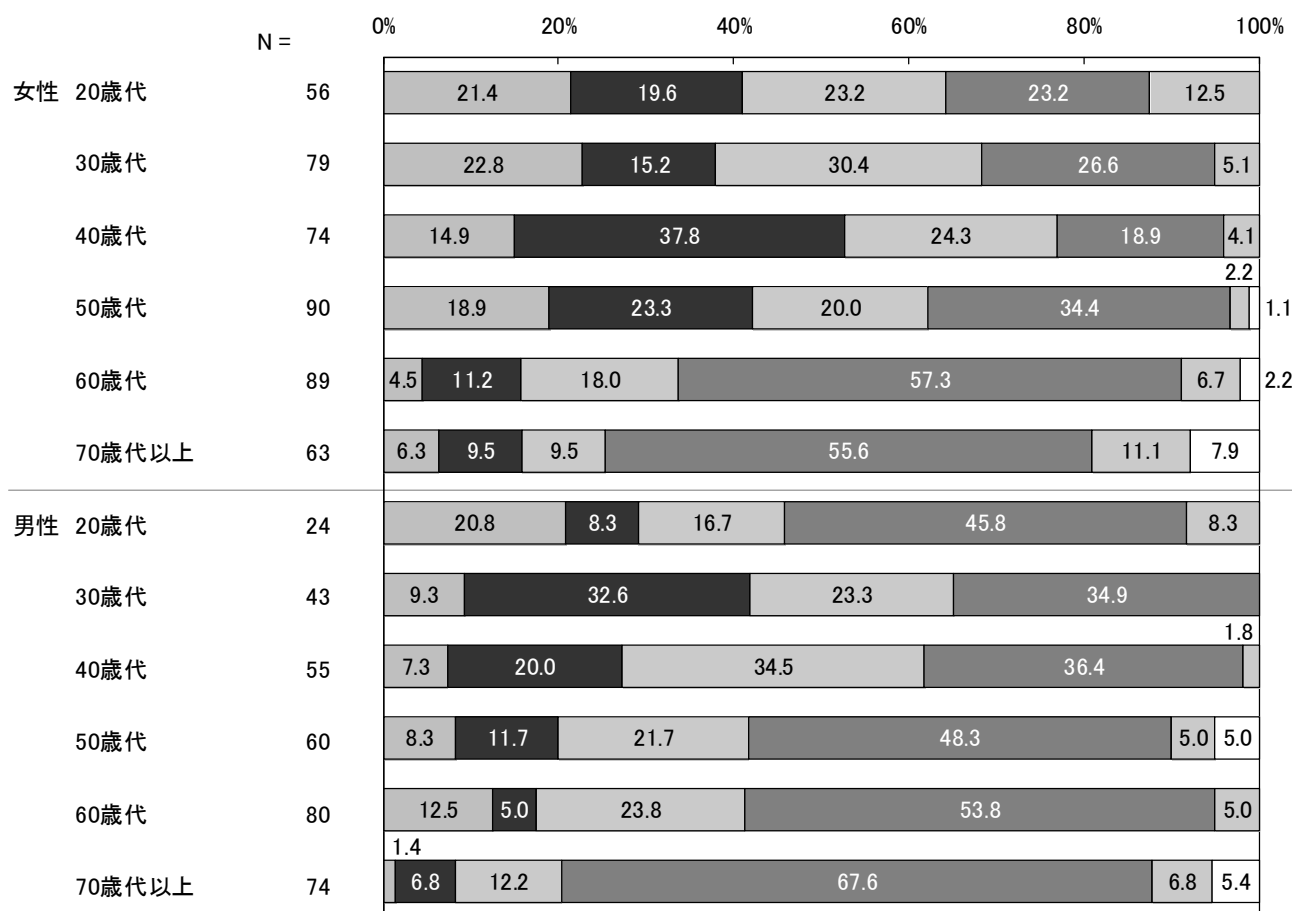
(性別)

「夫婦は別の姓を名乗ってもよい」という考え方については、性別で比較すると、男性で賛同しない人の割合が高く、約7割となっています。



(性・年代別)

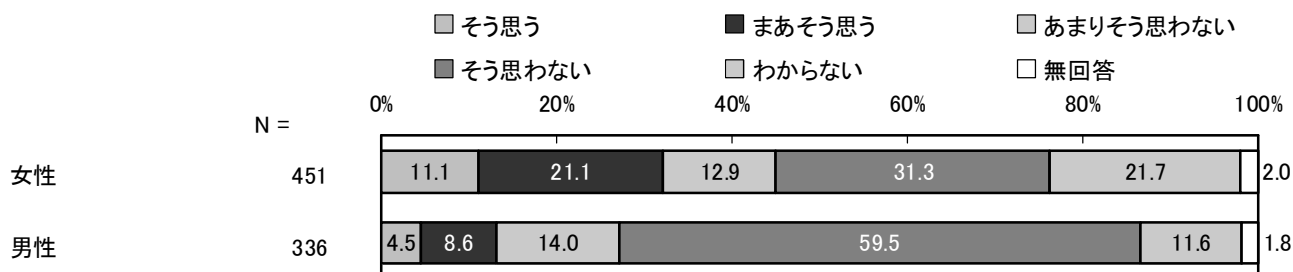
性・年代別で見ると、他の年代に比べ女性の20歳代から50歳代、男性の30歳代で賛同する人の割合が高くなっています。また、他の年代に比べ男性の70歳代以上で賛同する人の割合が低く、1割未満となっています。



⑥女性同士、男性同士の結婚も認められてもよい

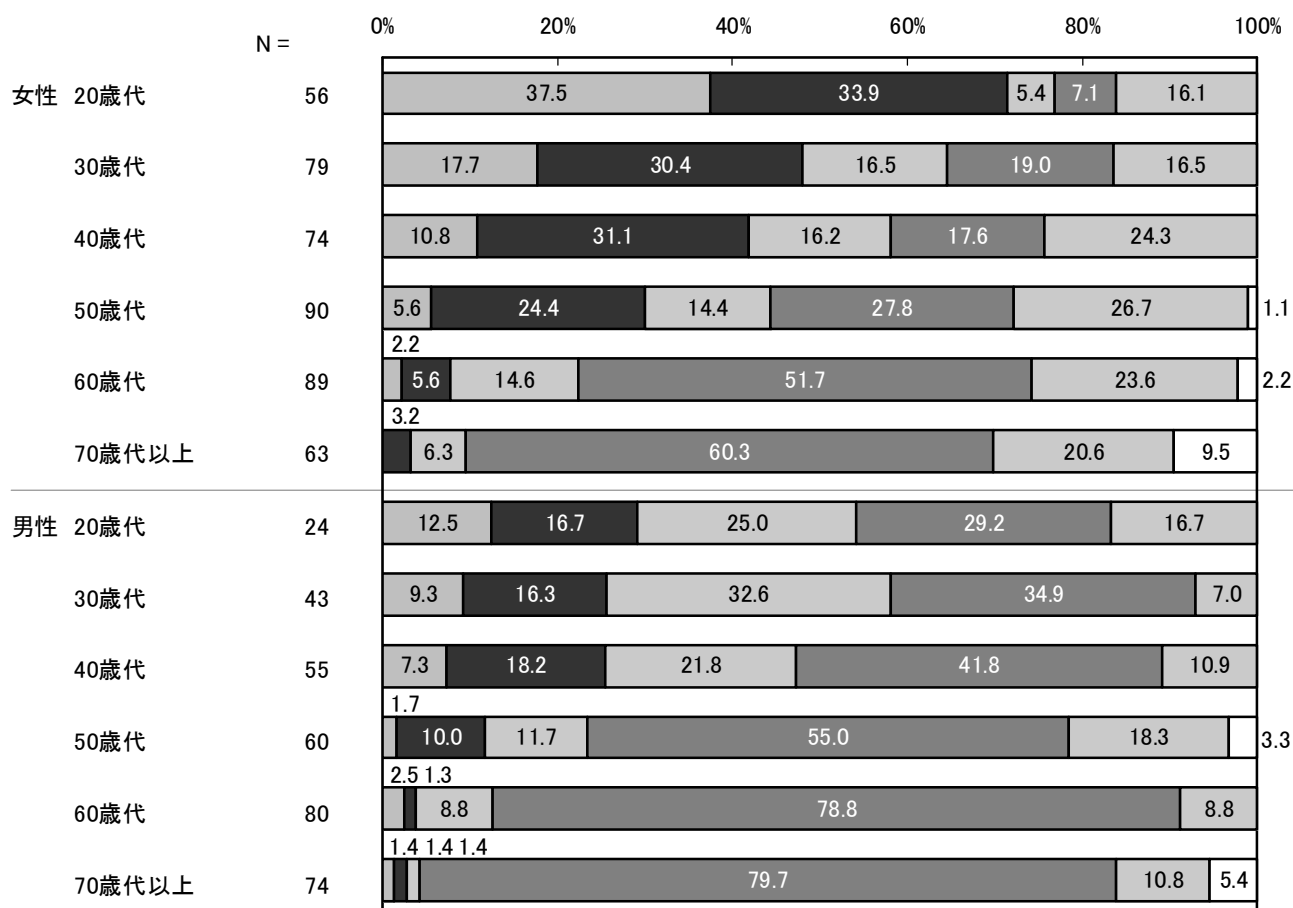
(性別)

「女性同士、男性同士の結婚も認められてもよい」という考え方については、性別で比較すると、男性で賛同しない人の割合が高く、約7割となっています。



(性・年代別)

性・年代別で見ると、男女とも年代が高くなるにつれ賛同する人の割合が低くなっており、60歳代、70歳代以上では賛同する人の割合が1割未満となっています。



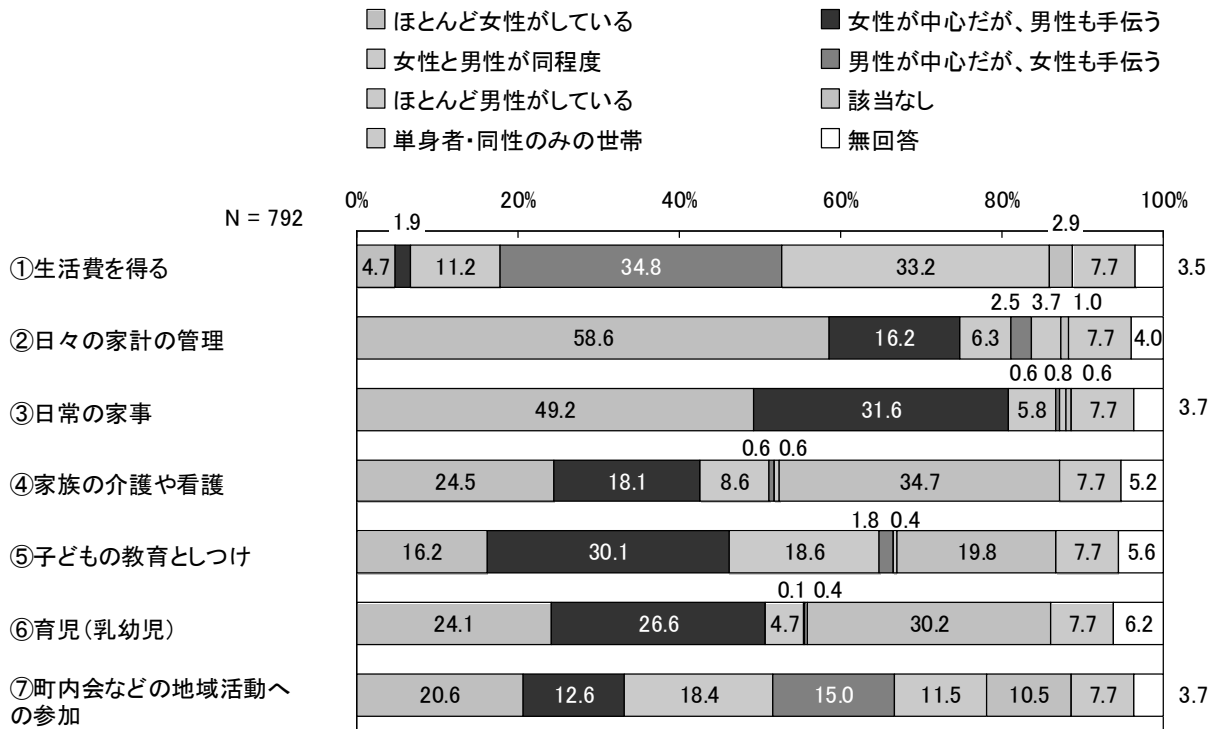
(2) 家庭生活での男女の分担

問 10 あなたの家庭では、家庭生活について、男女の間でどのように分担していますか。
(各項目ごと1つに○印)

家庭生活での男女の分担（全体）

家庭生活での男女間の役割分担については、①生活費を得るを除くすべての項目で「ほとんど女性がしている」と「女性が中心だが、男性も手伝う」をあわせた女性が担当している人の割合が、「男性が中心だが、女性も手伝う」と「ほとんど男性がしている」をあわせた男性が担当している人の割合よりも高くなっており、特に②日々の家計の管理、③日常の家事で女性が担当している人の割合が7割を超えています。

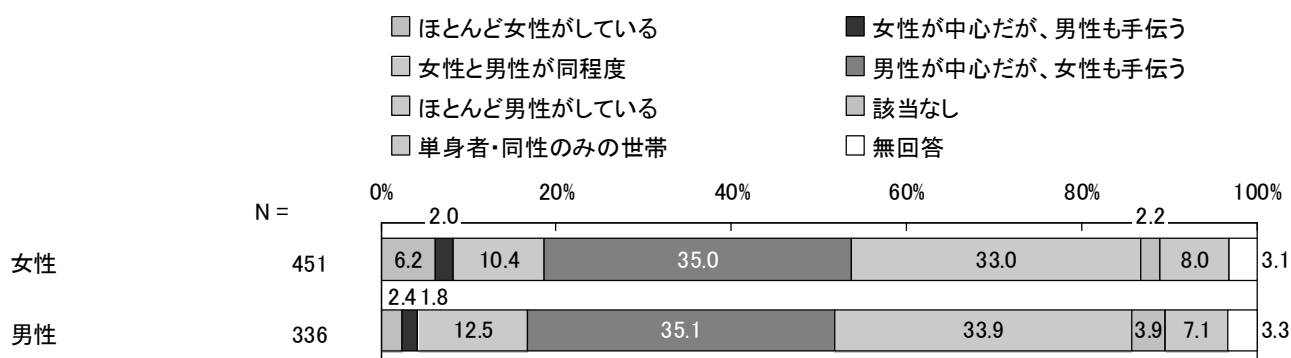
一方、①生活費を得るで男性が担当している人の割合が高く、約7割となっています。



①生活費を得る

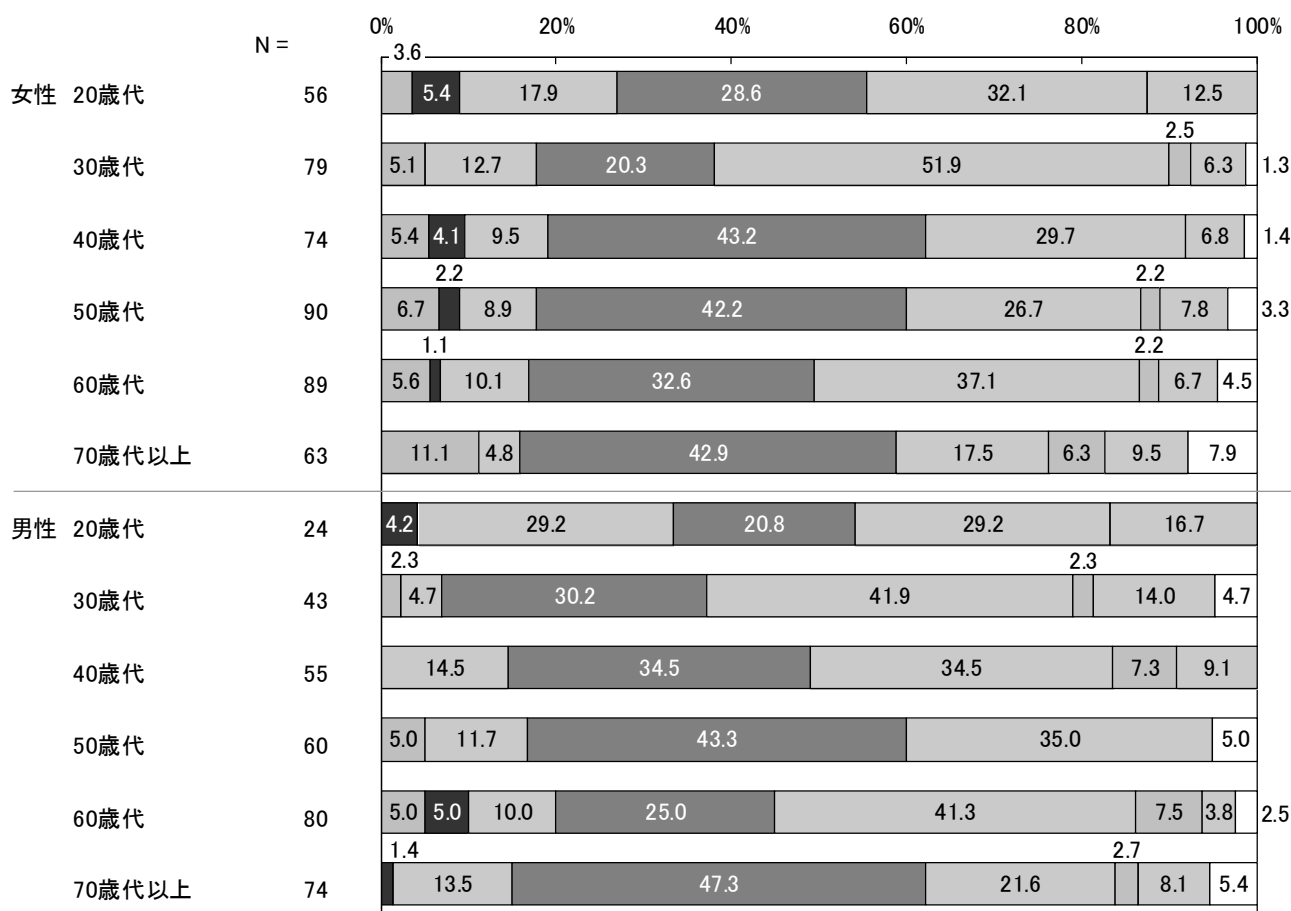
(性別)

生活費を得ることに関する男女間の役割分担について、性別による、大きな差異はみられません。



(性・年代別)

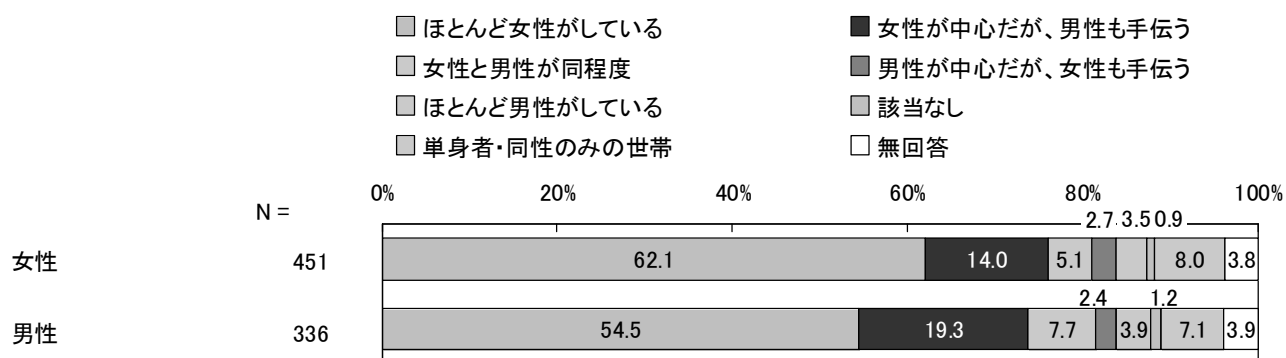
性・年代別で見ると、他の年代に比べ女性の30歳代で「ほとんど男性がしている」の割合が高く、約5割となっています。また、男性の20歳代で「女性と男性が同程度」の割合が高くなっています。



②日々の家計の管理

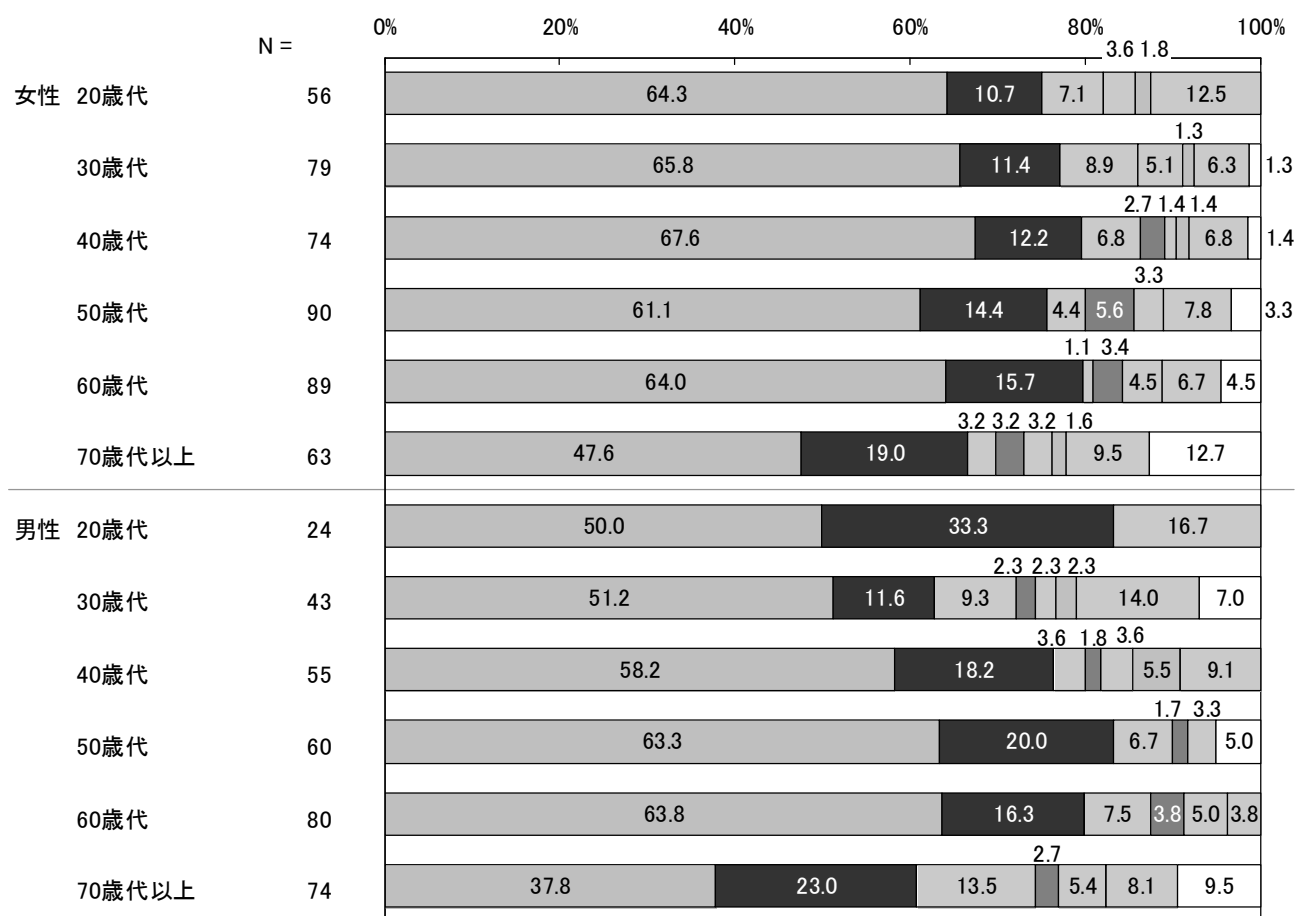
(性別)

日々の家計の管理に関する男女間の役割分担について、性別で比較すると、女性で「ほとんど女性がしている」の割合が高く、約6割となっています。



(性・年代別)

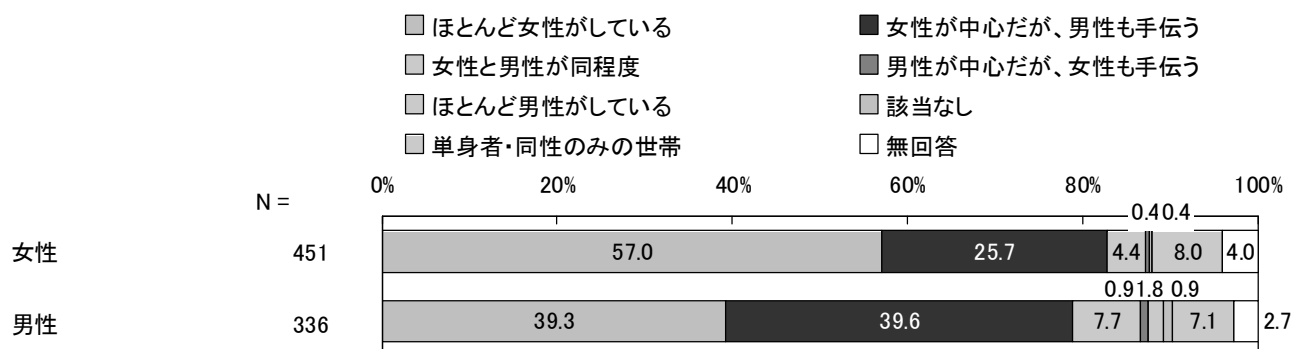
性・年代別でみると、他の年代に比べ男女とも70歳代以上で「ほとんど女性がしている」の割合が低くなっています。また、男性の20歳代で「女性が中心だが、男性も手伝う」の割合が高くなっています。



③日常の家事

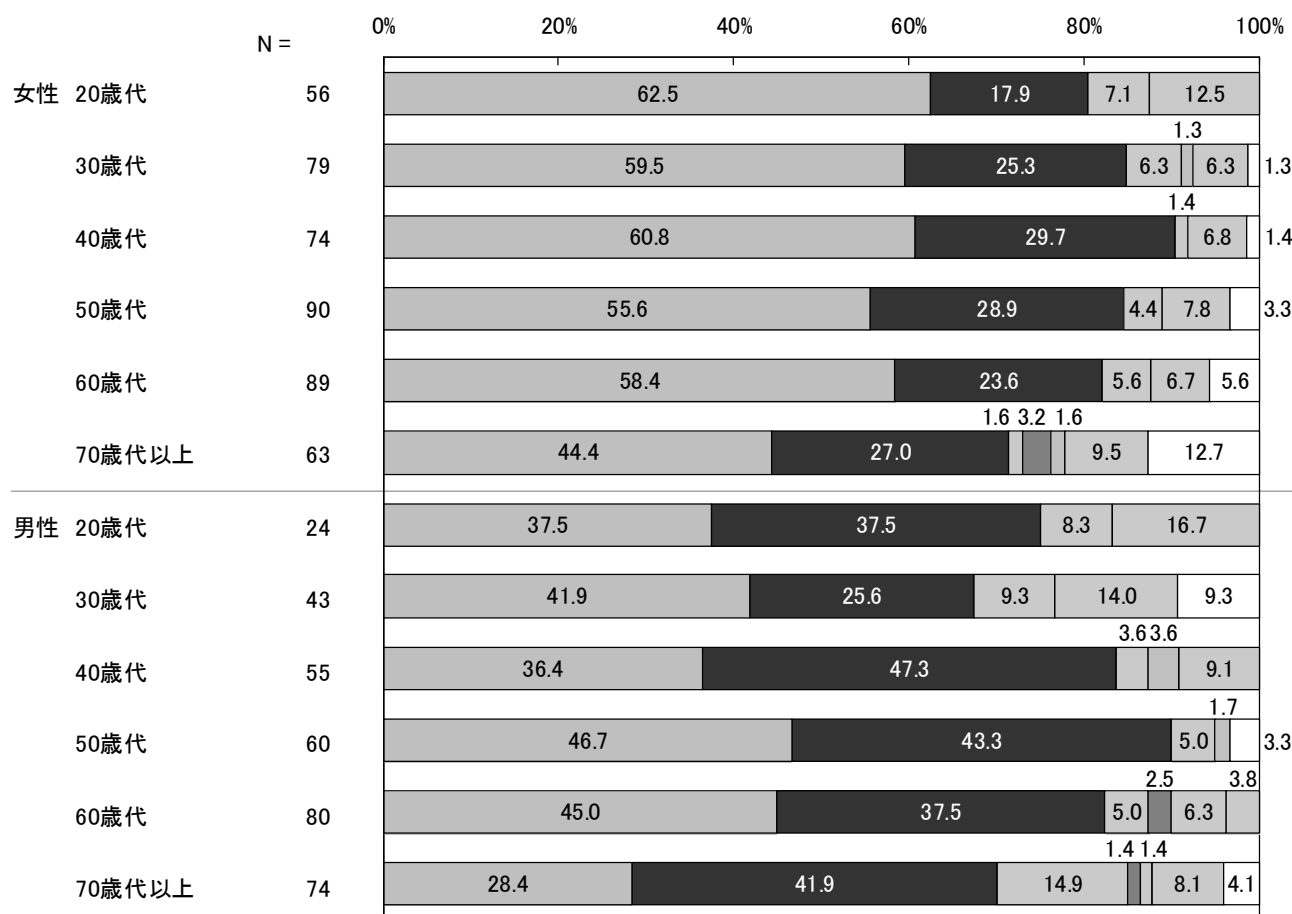
(性別)

日常の家事に関する男女間の役割分担について、性別で比較すると、女性で「ほとんど女性がしている」の割合が高く、約6割となっています。



(性・年代別)

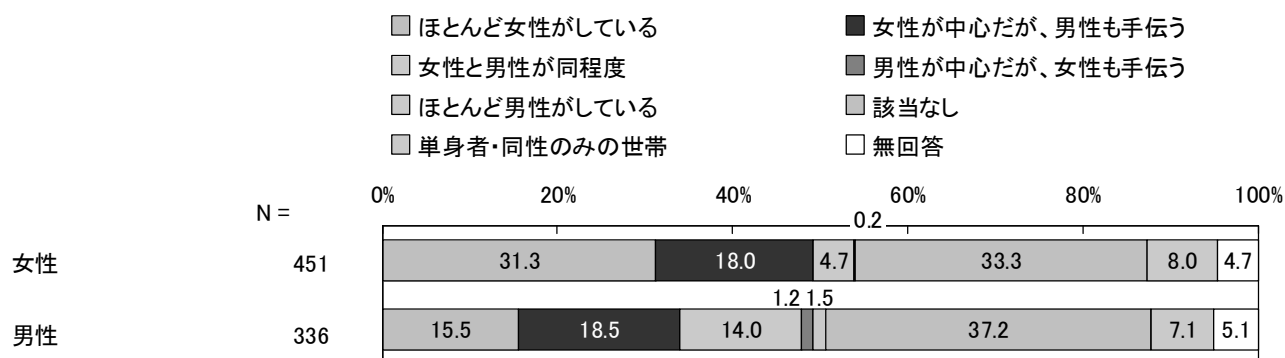
性・年代別でみると、他の年代に比べ女性の40歳代、男性の50歳代で女性が担当している人の割合が高く、約9割となっています。



④家族の介護や看護

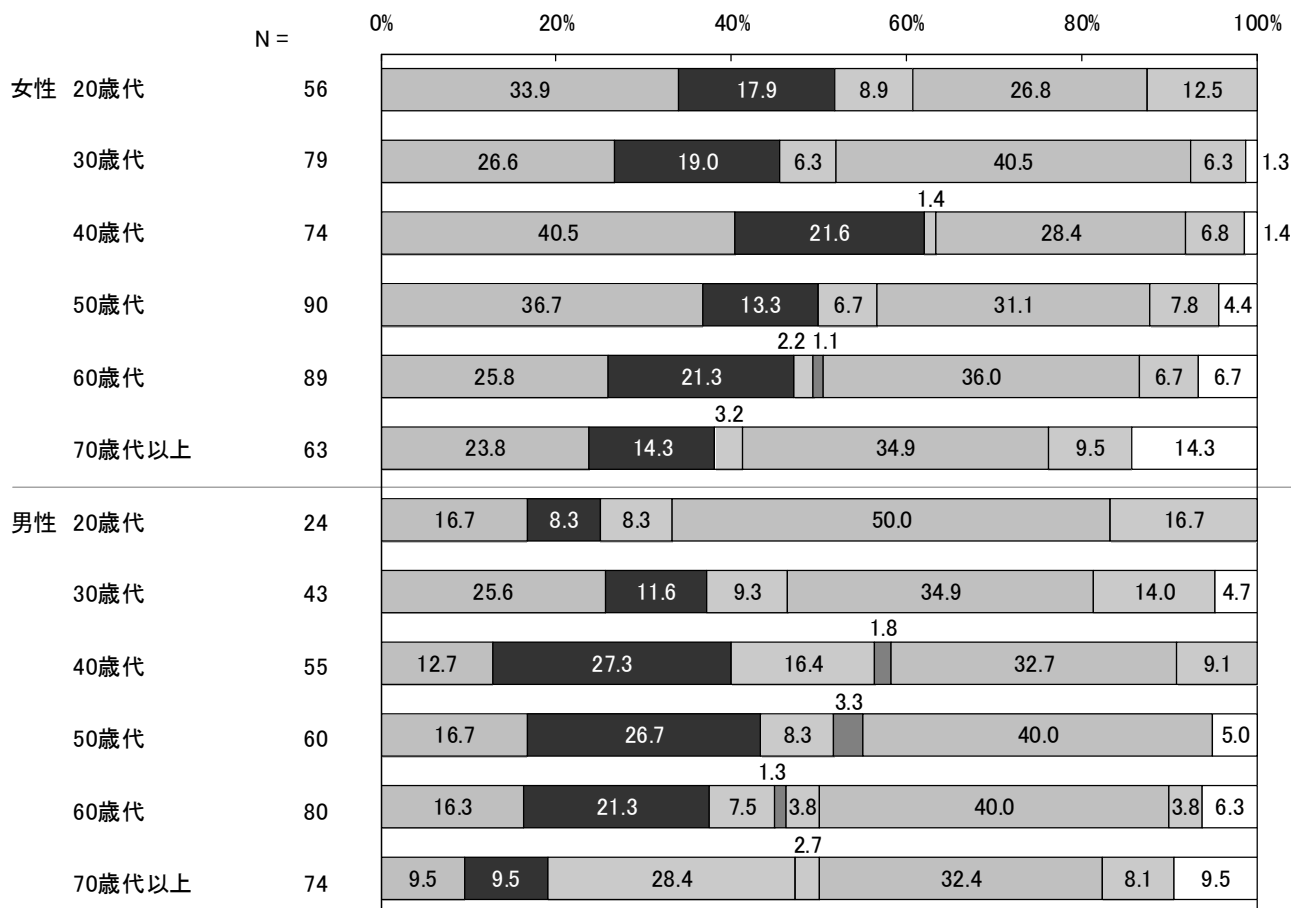
(性別)

家族の介護や看護に関する男女間の役割分担について、性別で比較すると、女性で女性が担当している人の割合が高くなっています。一方、男性で「女性と男性が同程度」の割合が高くなっています。



(性・年代別)

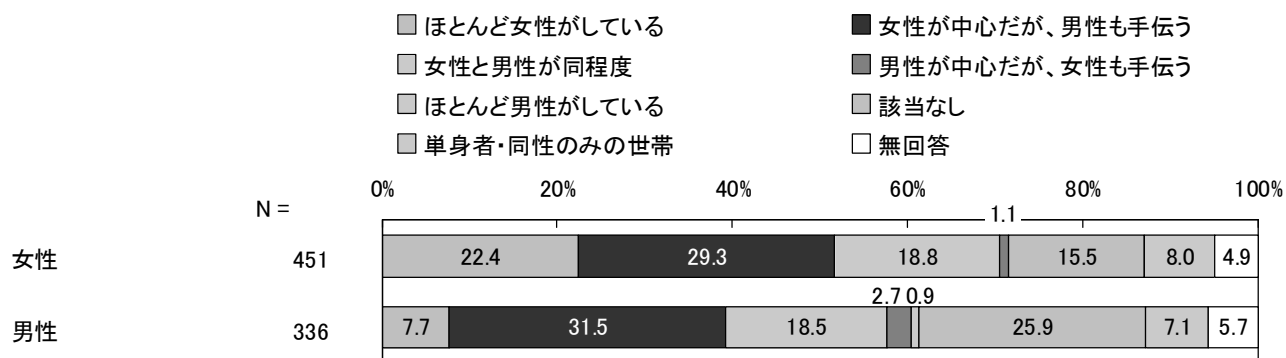
性・年代別でみると、他の年代に比べ女性の40歳代で女性が担当している人の割合が高く、6割以上となっています。一方、他の年代に比べ男性の70歳代以上で「女性と男性が同程度」の割合が高くなっています。



⑤子どもの教育としつけ

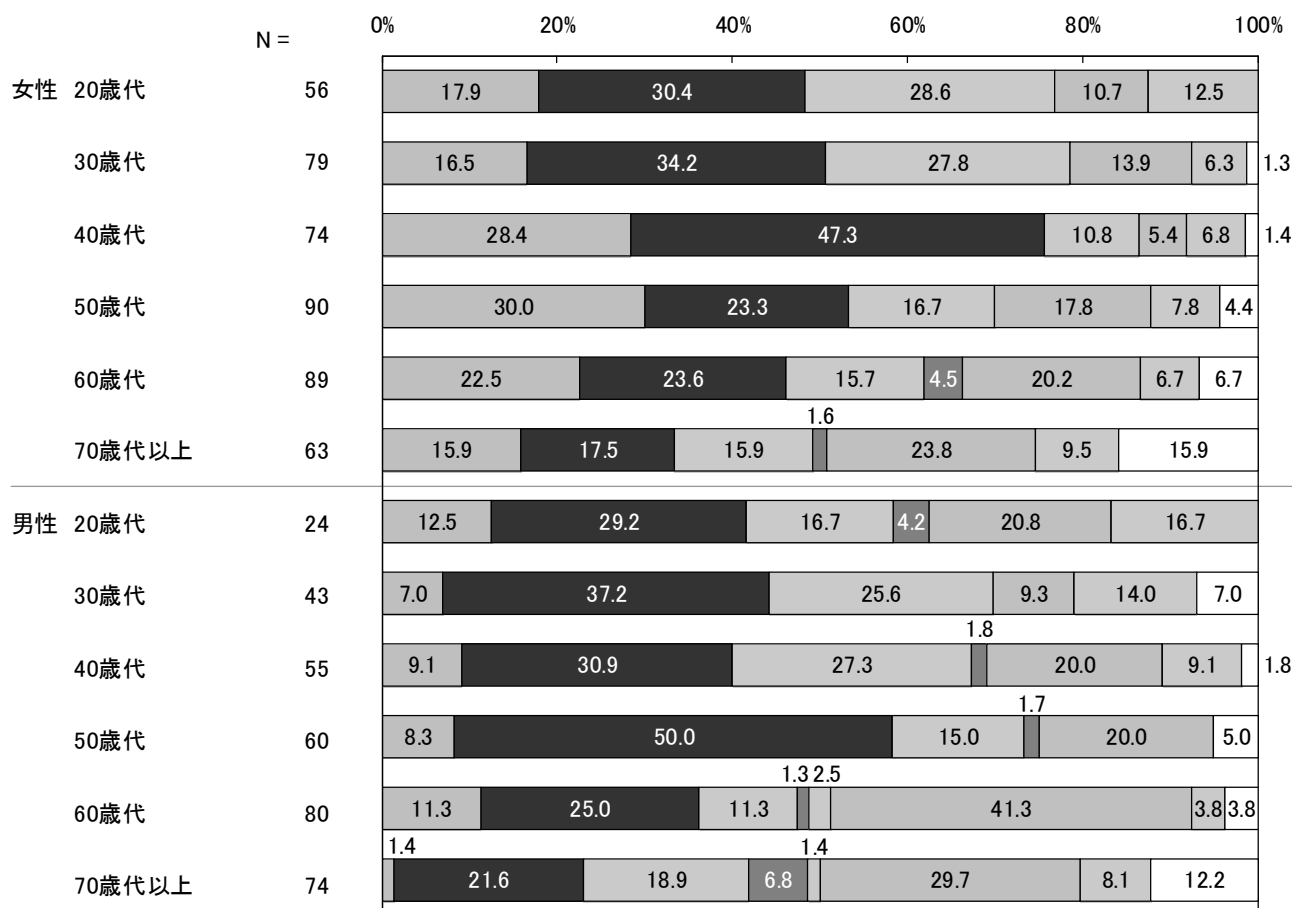
(性別)

子どもの教育としつけに関する男女間の役割分担について、性別で比較すると、女性で女性が担当している人の割合が高く、約5割となっています。



(性・年代別)

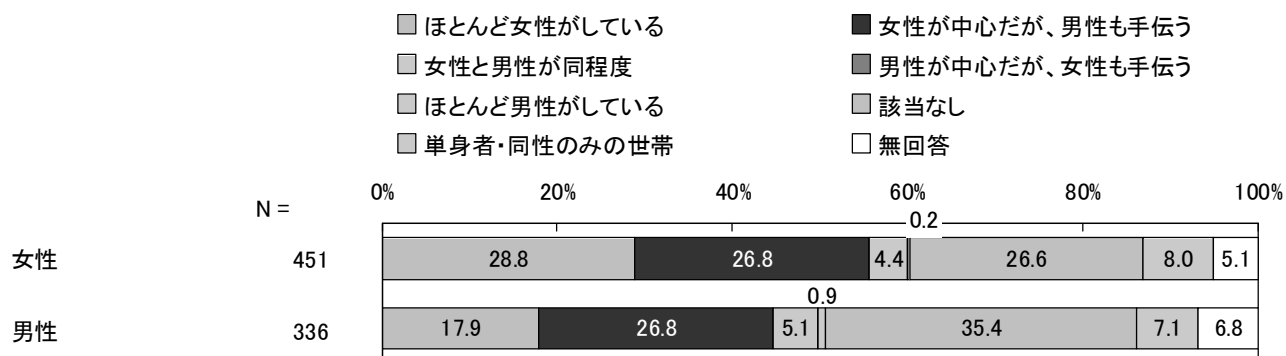
性・年代別でみると、他の年代に比べ女性の40歳代で女性が担当している人の割合が高く、約8割となっています。また、女性の40歳代、男性の50歳代で「女性が中心だが、男性も手伝う」の割合が高く、約5割となっています。一方、他の年代に比べ女性の20歳代、30歳代、男性の30歳代、40歳代で「女性と男性が同程度」の割合が高くなっています。



⑥育児（乳幼児）

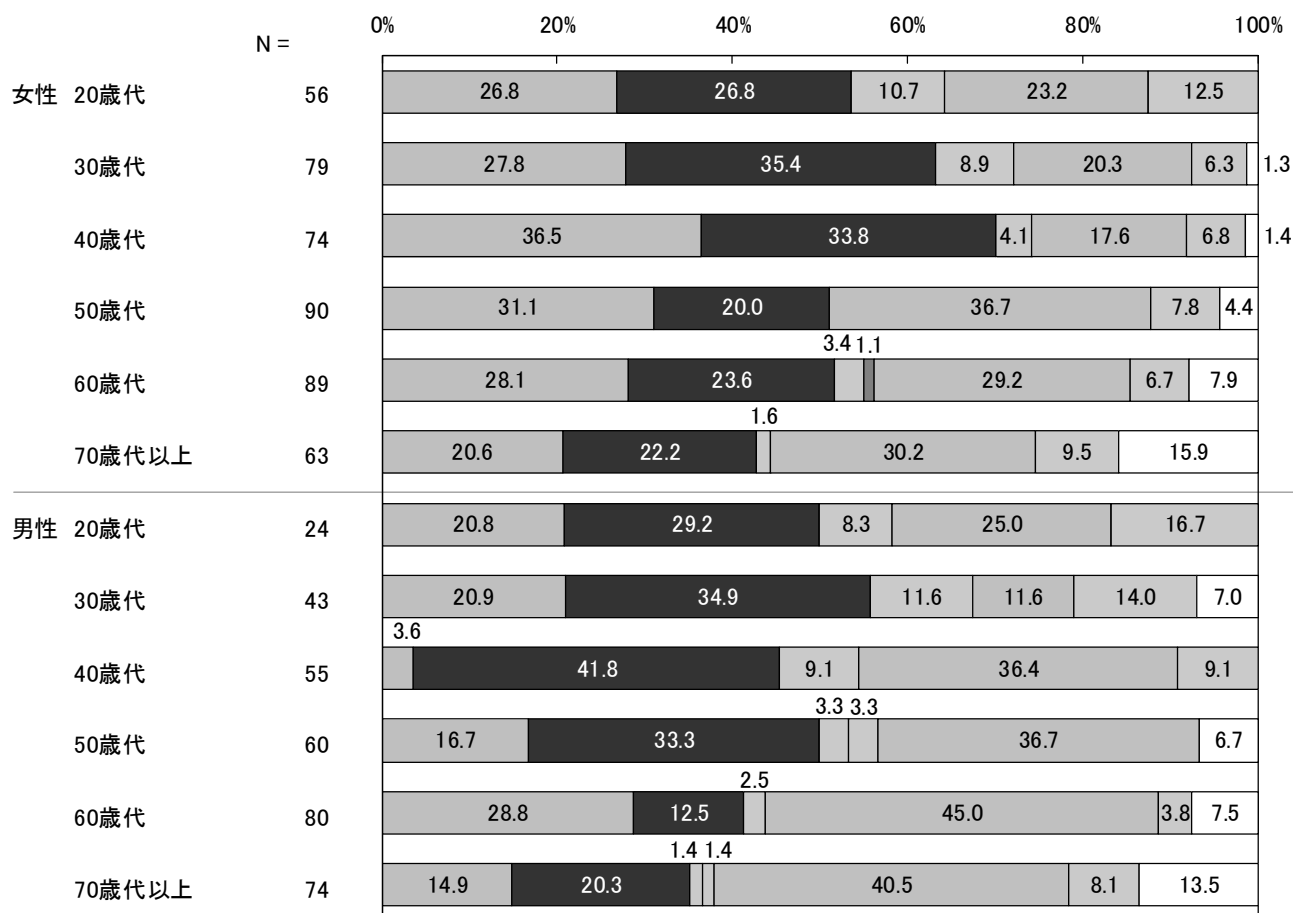
（性別）

乳幼児の育児に関する男女間の役割分担について、性別で比較すると、女性で女性が担当している人の割合が高くなっています。



（性・年代別）

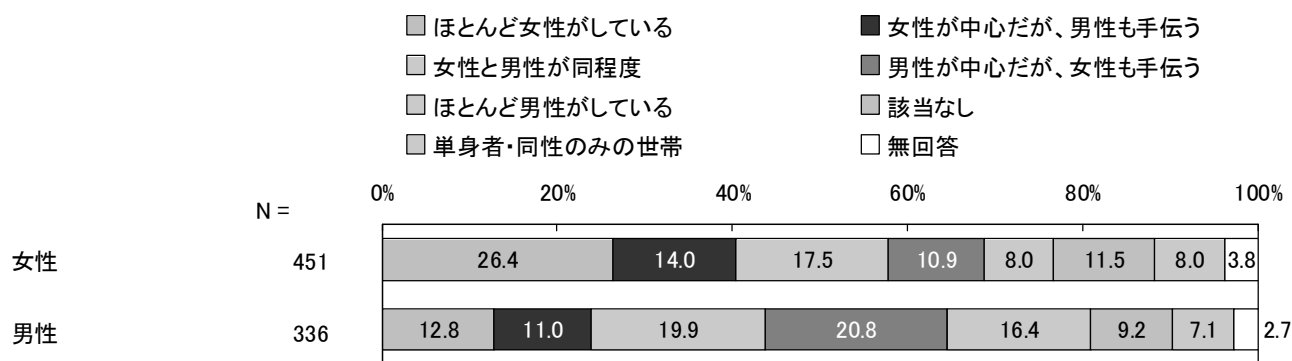
性・年代別でみると、他の年代に比べ女性の30歳代、40歳代で女性が担当している人の割合が高く、6割を超えています。また、男性の40歳代で「女性が中心だが、男性も手伝う」の割合が高く、4割を超えています。



⑦町内会などの地域活動への参加

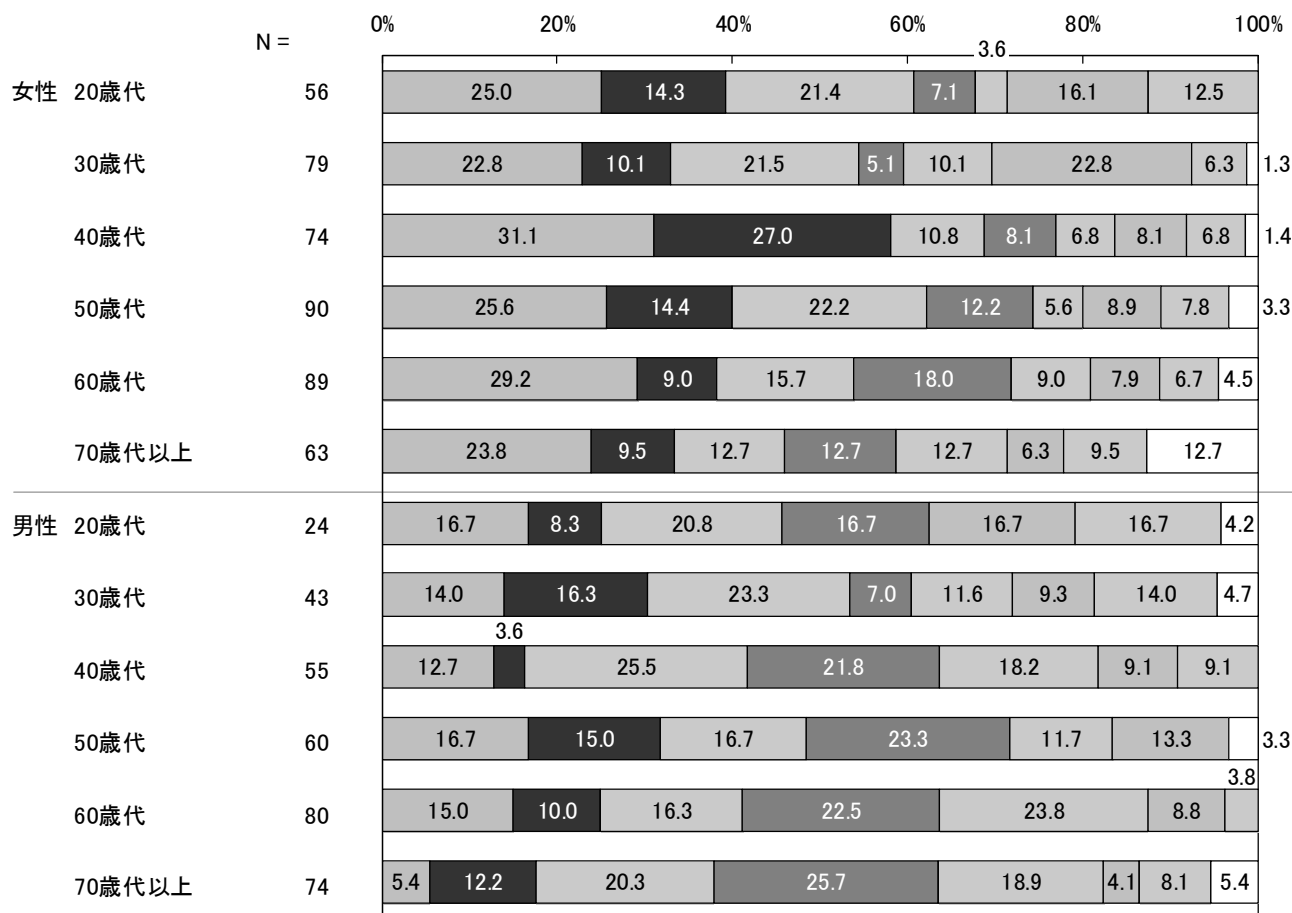
(性別)

地域活動への参加に関する男女間の役割分担について、性別で比較すると、女性で女性が担当している人の割合が高くなっています。また、男性で、男性が担当している人の割合が高くなっています。



(性・年代別)

性・年代別で見ると、他の年代に比べ女性の40歳代で女性が担当している人の割合が高く、約6割となっています。また、男性の60歳代、70歳代以上で男性が担当している人の割合が高くなっています。



(3) 女性の生き方

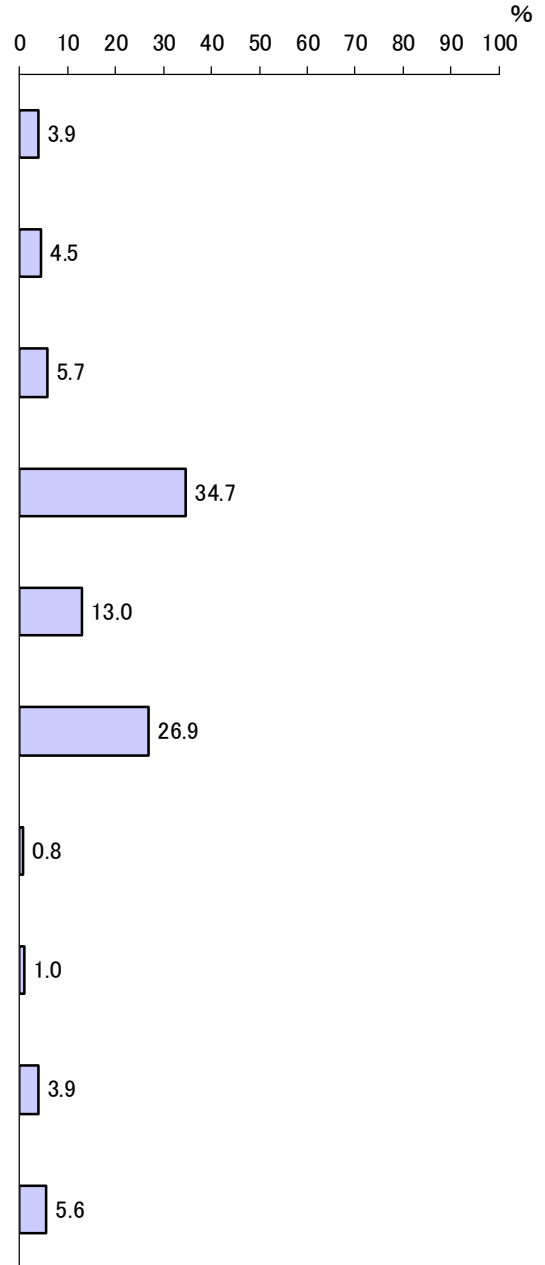
問 11 仕事と家庭について、あなたが望ましいと思う女性の生き方は何ですか。女性も男性もお答えください。(あてはまるもの1つに○印)

女性の仕事と家庭について－理想（全体）

仕事と家庭についての女性の望ましい生き方については、「結婚や出産を機に退職し、家事・育児に専念、その後再就職（パートタイム）」の割合が34.7%と最も高く、次いで「結婚・出産後も仕事を続け、仕事と家庭を両立する」の割合が26.9%、「結婚や出産を機に退職し、家事・育児に専念、その後再就職（フルタイム・自営）」の割合が13.0%となっています。

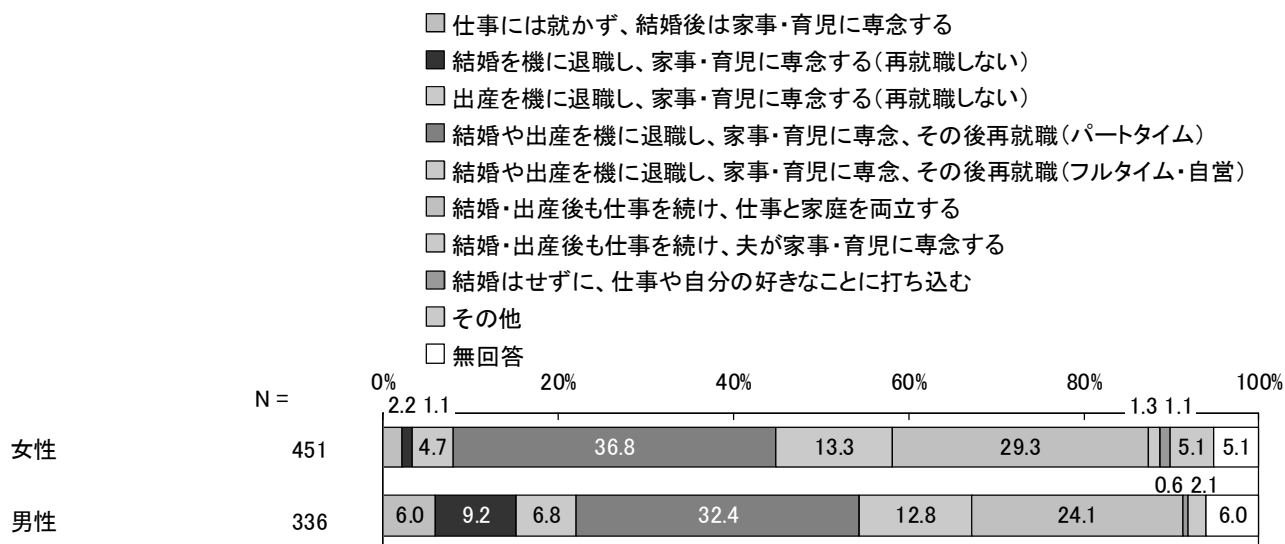
N = 792

- 仕事には就かず、結婚後は家事・育児に専念する
- 結婚を機に退職し、家事・育児に専念する（再就職しない）
- 出産を機に退職し、家事・育児に専念する（再就職しない）
- 結婚や出産を機に退職し、家事・育児に専念、その後再就職（パートタイム）
- 結婚や出産を機に退職し、家事・育児に専念、その後再就職（フルタイム・自営）
- 結婚・出産後も仕事を続け、仕事と家庭を両立する
- 結婚・出産後も仕事を続け、夫が家事・育児に専念する
- 結婚はせずに、仕事や自分の好きなことに打ち込む
- その他
- 無回答



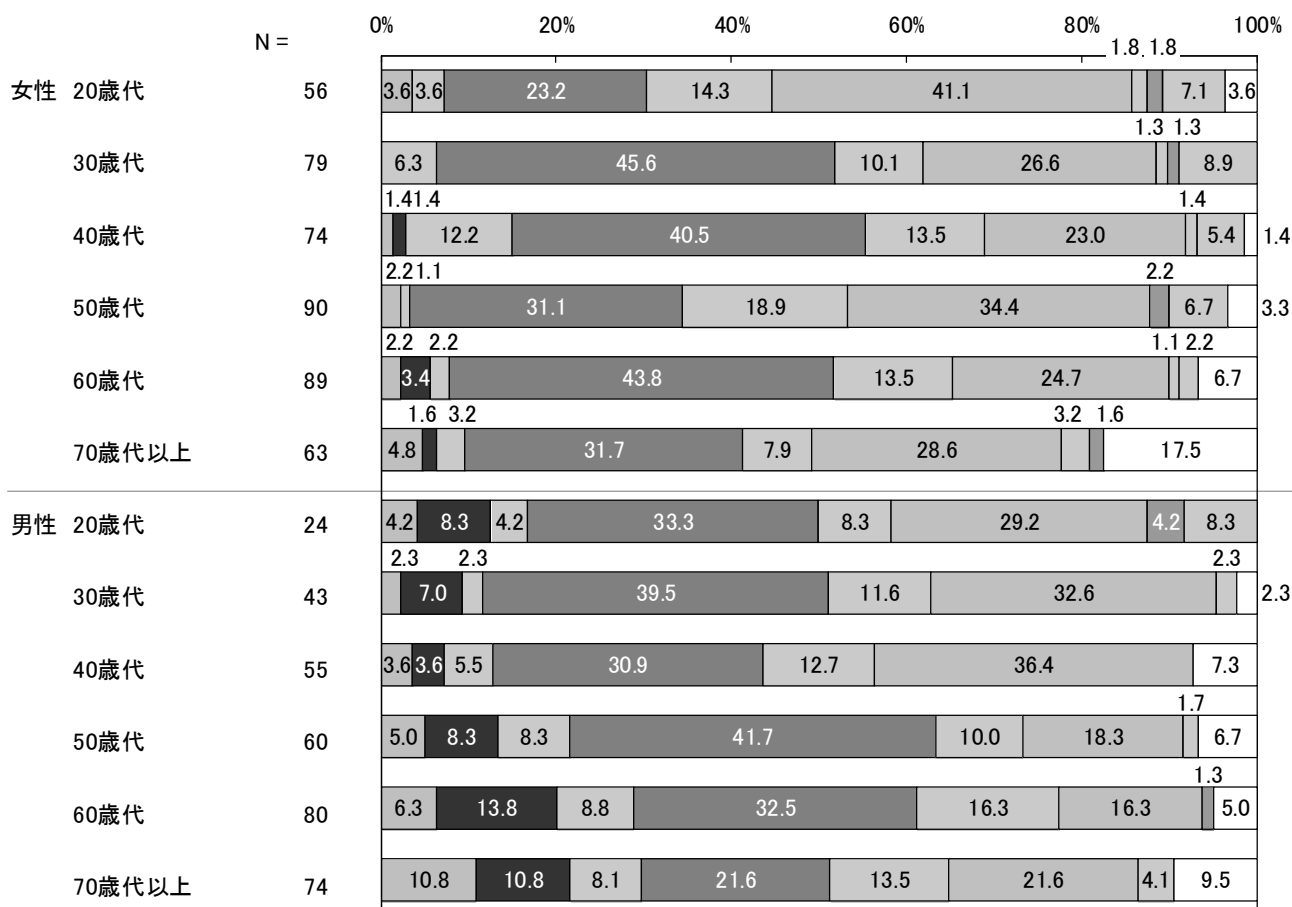
女性の仕事と家庭について－理想（性別）

性別で比較すると、女性で「結婚・出産後も仕事を続け、仕事と家庭を両立する」の割合が高くなっています。また、男性で「結婚を機に退職し、家事・育児に専念する（再就職しない）」の割合が高くなっており、男女間で女性の生き方に関する意識の差がみられます。



女性の仕事と家庭について－理想（性・年代別）

性・年代別でみると、他の年代に比べ女性の 20 歳代で「結婚・出産後も仕事を続け、仕事と家庭を両立する」の割合が高くなっています。また、女性の 30 歳代で「結婚や出産を機に退職し、家事・育児に専念、その後再就職（パートタイム）」の割合が高く、約 5 割となっています。



女性の仕事と家庭について－理想【平成 17 年度調査結果との比較】

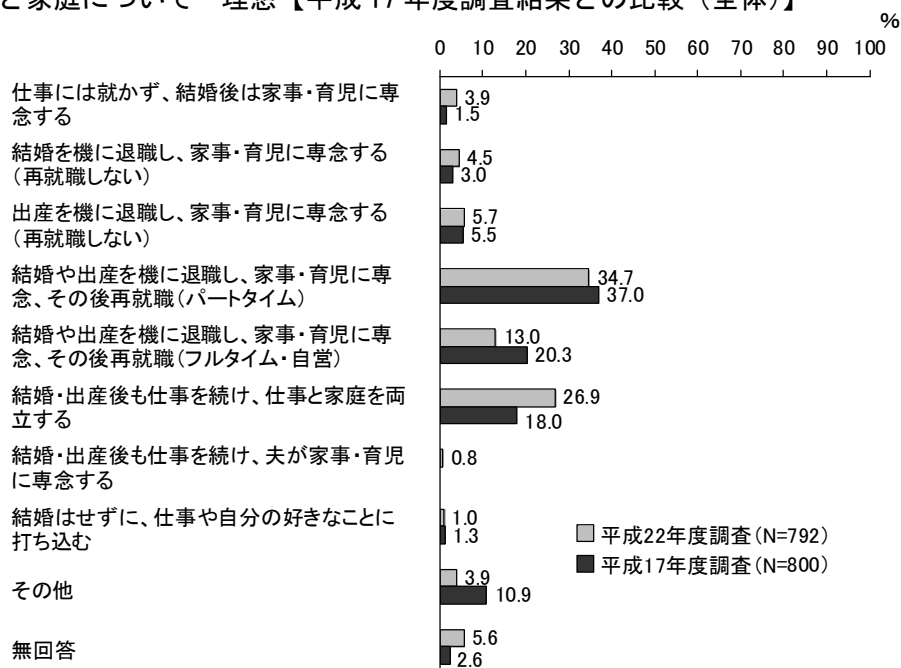
平成 17 年度調査結果と比較すると、「結婚・出産後も仕事を続け、仕事と家庭を両立する」の割合が高くなっています。

性別で平成 17 年度調査結果と比較すると、特に女性で「結婚や出産を機に退職し、家事・育児に専念、その後再就職（フルタイム・自営）」の割合が低く、「結婚・出産後も仕事を続け、仕事と家庭を両立する」の割合が高くなっています。

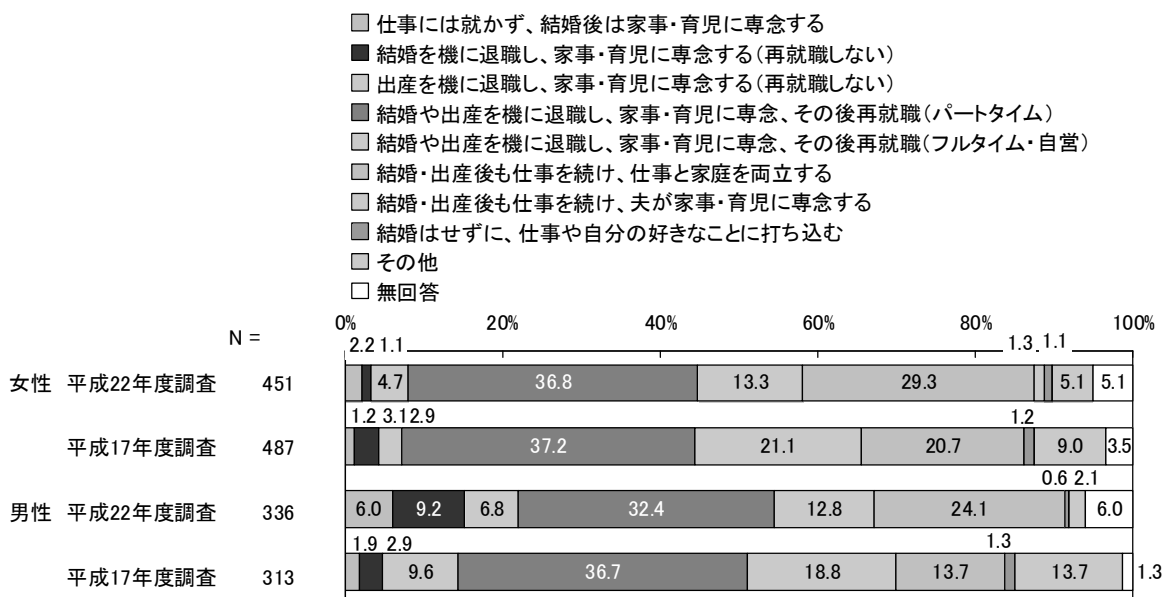
これらのことから女性の生き方として、結婚や出産を経ても継続して就業することを希望している人が増えてきていることがうかがえます。

参 考

女性の仕事と家庭について－理想【平成 17 年度調査結果との比較（全体）】



女性の仕事と家庭について－理想【平成 17 年度調査結果との比較（性別）】

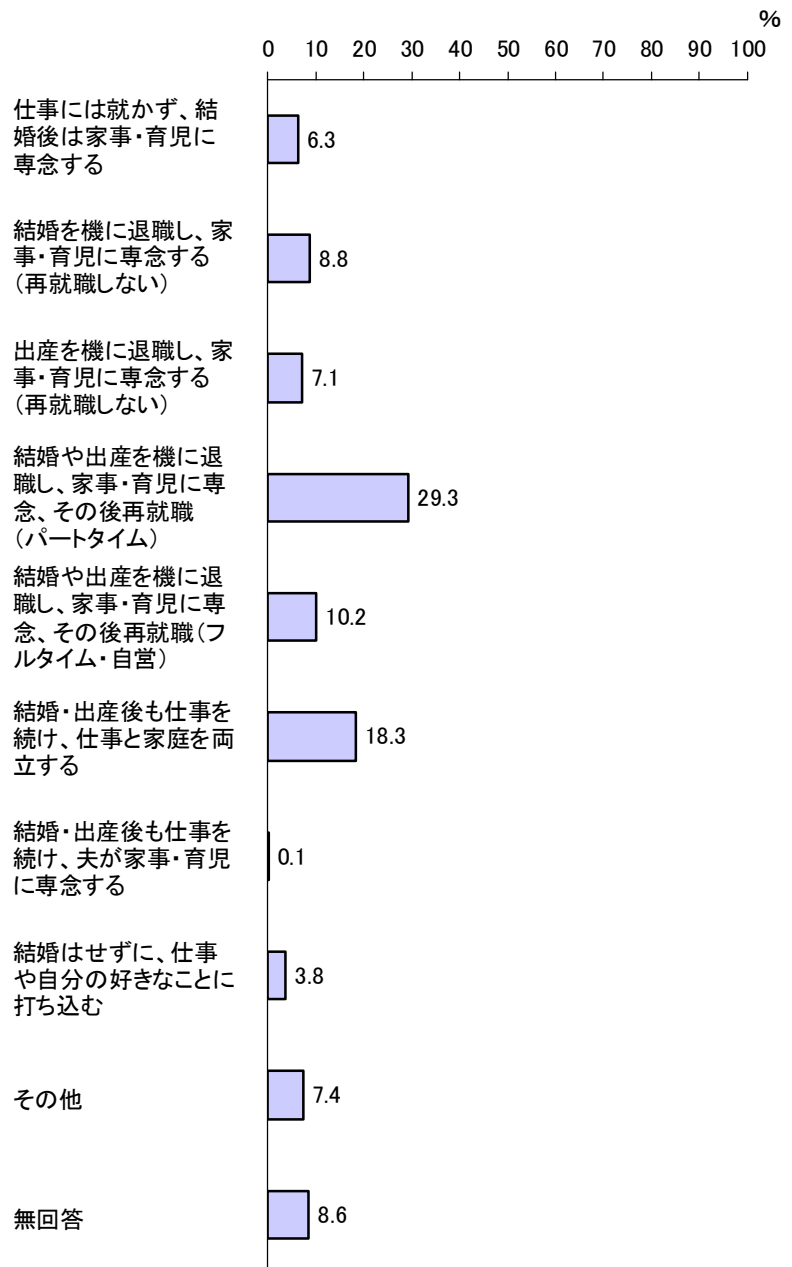


※平成 17 年度調査の回答項目と内容が類似しているものを比較しています。ただし、平成 17 年度調査の回答項目には「結婚・出産後も仕事を続け、夫が家事・育児に専念する」に類似する項目はありません

問 11-1 仕事と家庭について、あなたの場合、実際にはどれにあてはまりますか。女性の方はご自身について、男性の方は配偶者についてお答えください。
(あてはまるもの1つに○印)

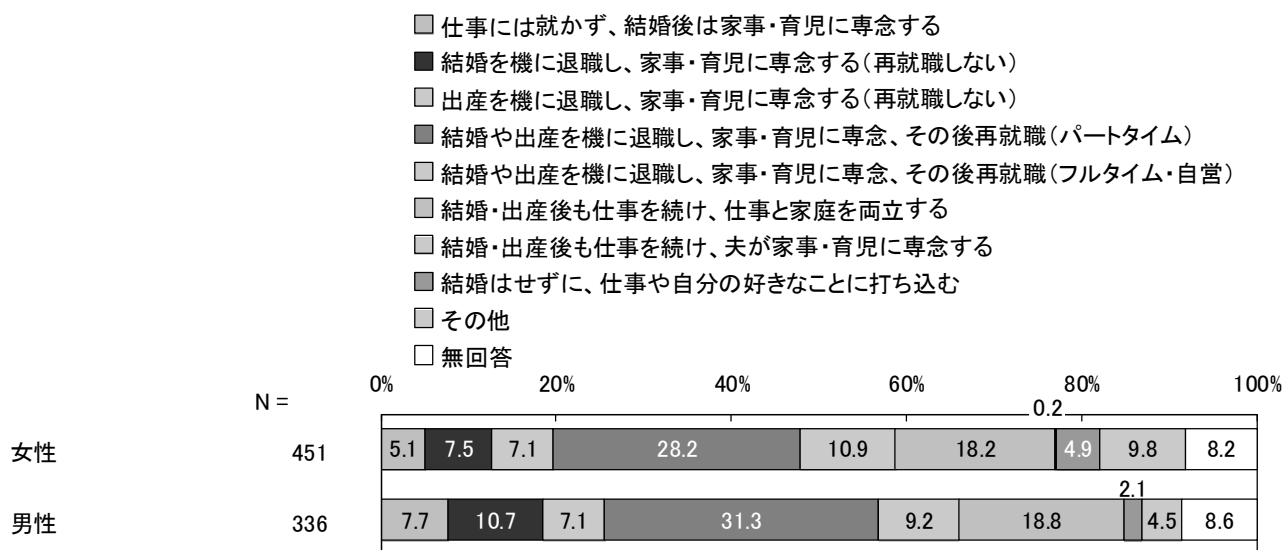
女性の仕事と家庭について—実際（全体）

仕事と家庭についての女性の実際 N = 792
 際には、「結婚や出産を機に退職し、家事・育児に専念、その後再就職（パートタイム）」の割合が29.3%と最も高く、次いで「結婚・出産後も仕事を続け、仕事と家庭を両立する」の割合が18.3%、「結婚や出産を機に退職し、家事・育児に専念、その後再就職（フルタイム・自営）」の割合が10.2%となっています。



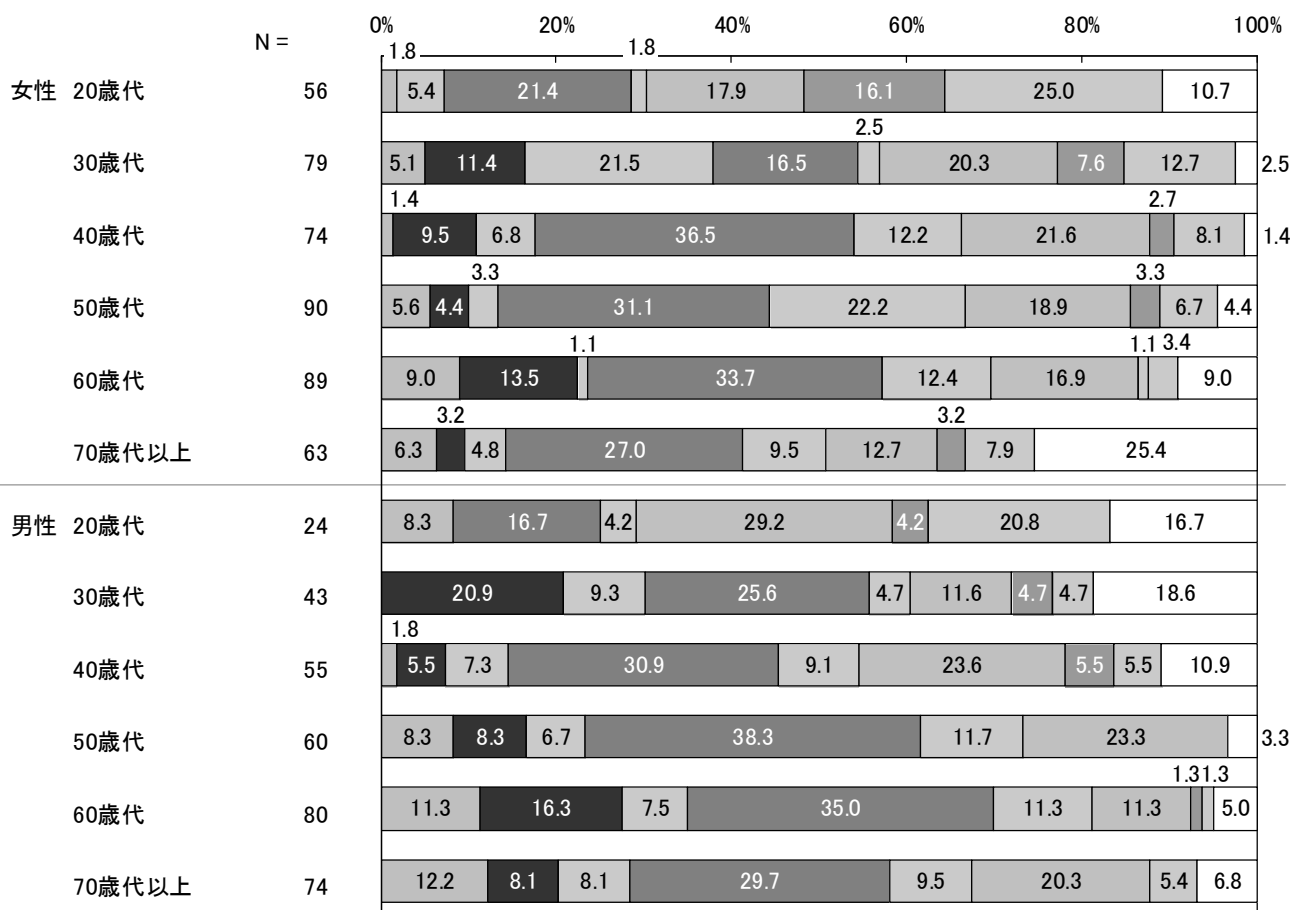
女性の仕事と家庭について—実際（性別）

性別による、大きな差異はみられません。



女性の仕事と家庭について—実際（性・年代別）

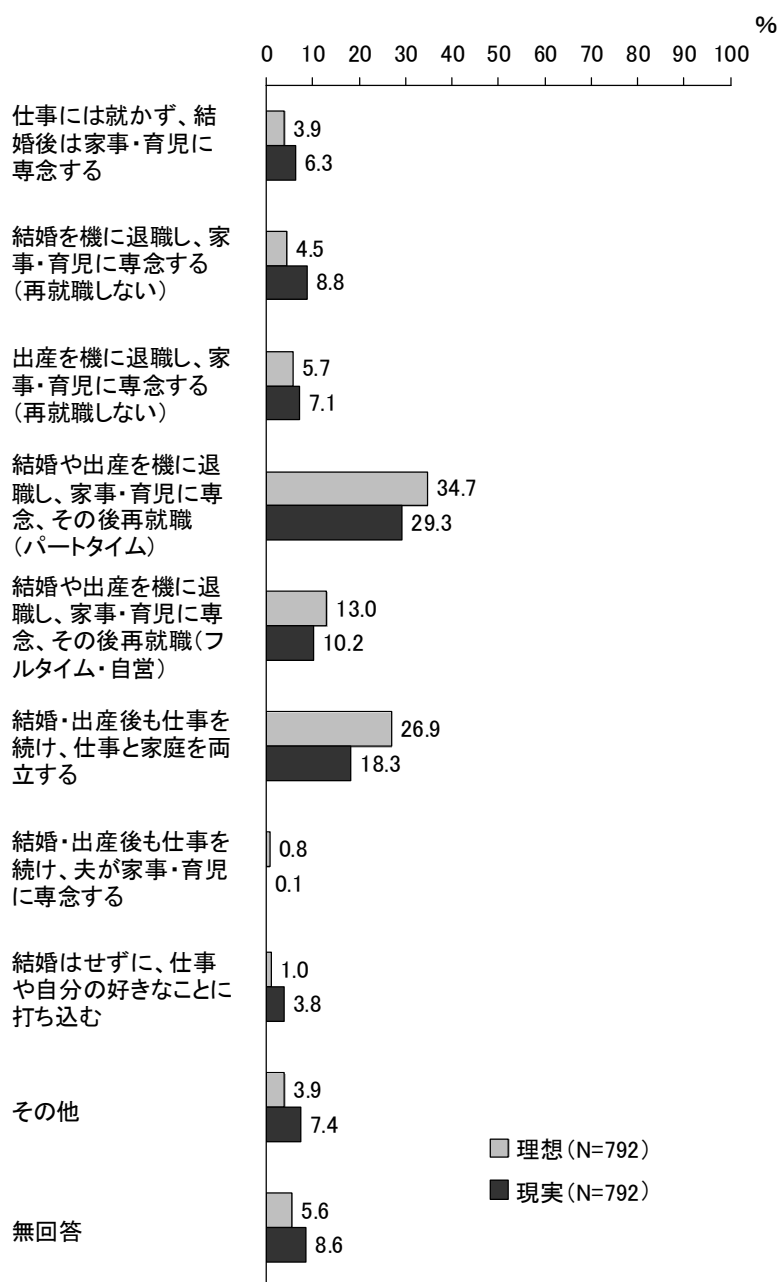
性・年代別でみると、他の年代に比べ女性の30歳代で「出産を機に退職し、家事・育児に専念する(再就職しない)」の割合が、女性の50歳代で「結婚や出産を機に退職し、家事・育児に専念、その後再就職(フルタイム・自営)」の割合が高くなっています。また、女性の30歳代、男性の20歳代で「結婚や出産を機に退職し、家事・育児に専念、その後再就職(パートタイム)」の割合が低くなっています。



【理想と現実の比較】

女性の仕事と家庭について－理想と現実の比較（全体）

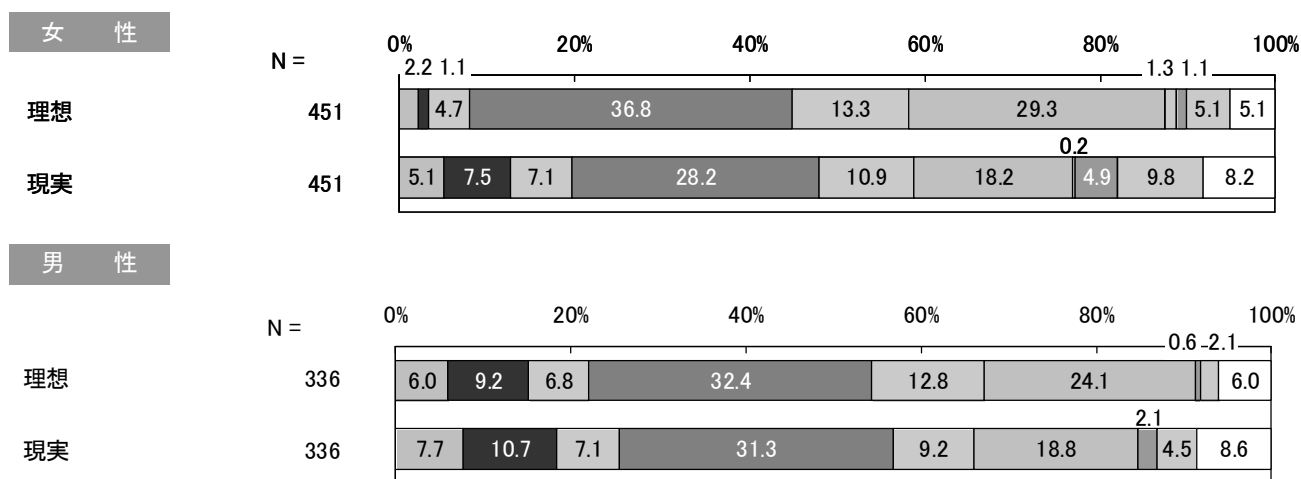
理想と現実を比較すると、「結婚や出産を機に退職し、家事・育児に専念、その後再就職（パートタイム）」「結婚・出産後も仕事を続け、仕事と家庭を両立する」の割合が理想に比べ現実で低くなっており、女性が希望するライフコースの実現に向けた支援の必要性がうかがえます。



女性の仕事と家庭について－理想と現実の比較（性別）

それぞれの性別で理想と現実を比較すると、特に女性で差異が大きく、理想に比べ現実の割合は「結婚や出産を機に退職し、家事・育児に専念、その後再就職（パートタイム）」で8.6ポイント、「結婚・出産後も仕事を続け、仕事と家庭を両立する」で11.1ポイント低くなっています。

- 仕事には就かず、結婚後は家事・育児に専念する
- 結婚を機に退職し、家事・育児に専念する（再就職しない）
- 出産を機に退職し、家事・育児に専念する（再就職しない）
- 結婚や出産を機に退職し、家事・育児に専念、その後再就職（パートタイム）
- 結婚や出産を機に退職し、家事・育児に専念、その後再就職（フルタイム・自営）
- 結婚・出産後も仕事を続け、仕事と家庭を両立する
- 結婚・出産後も仕事を続け、夫が家事・育児に専念する
- 結婚はせずに、仕事や自分の好きなことに打ち込む
- その他
- 無回答

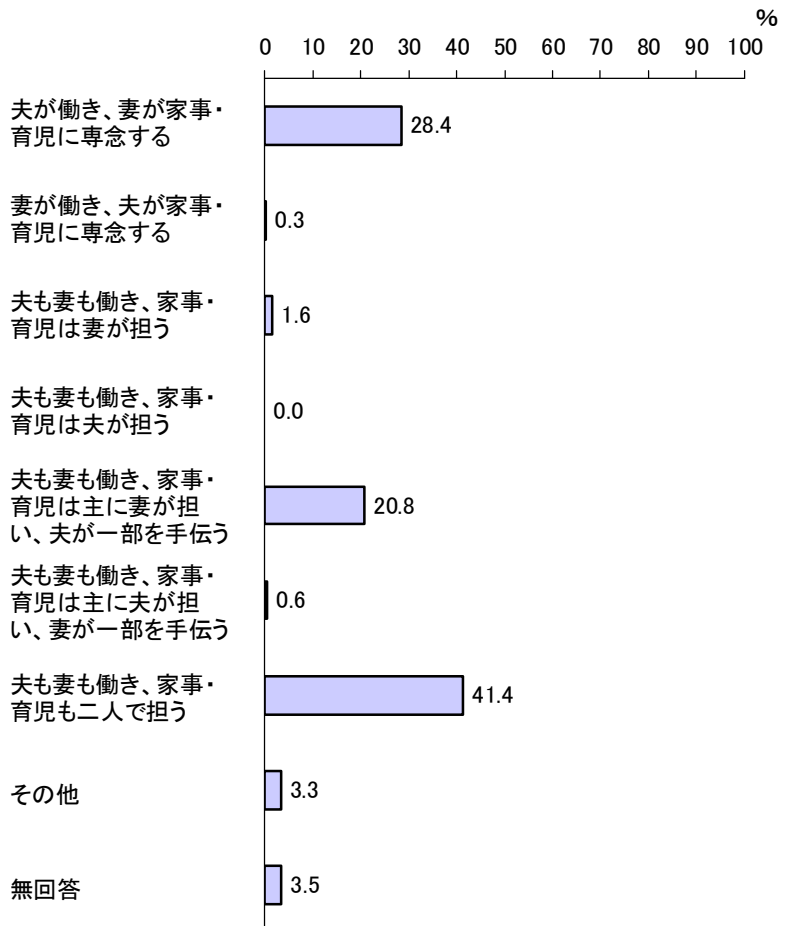


(4) 仕事と家庭のあり方

問 12 夫と妻の役割について、あなたが理想とする仕事と家庭のあり方はどれにあてはまりますか。既婚・未婚にかかわらずお答えください。
(あてはまるもの1つに○印)

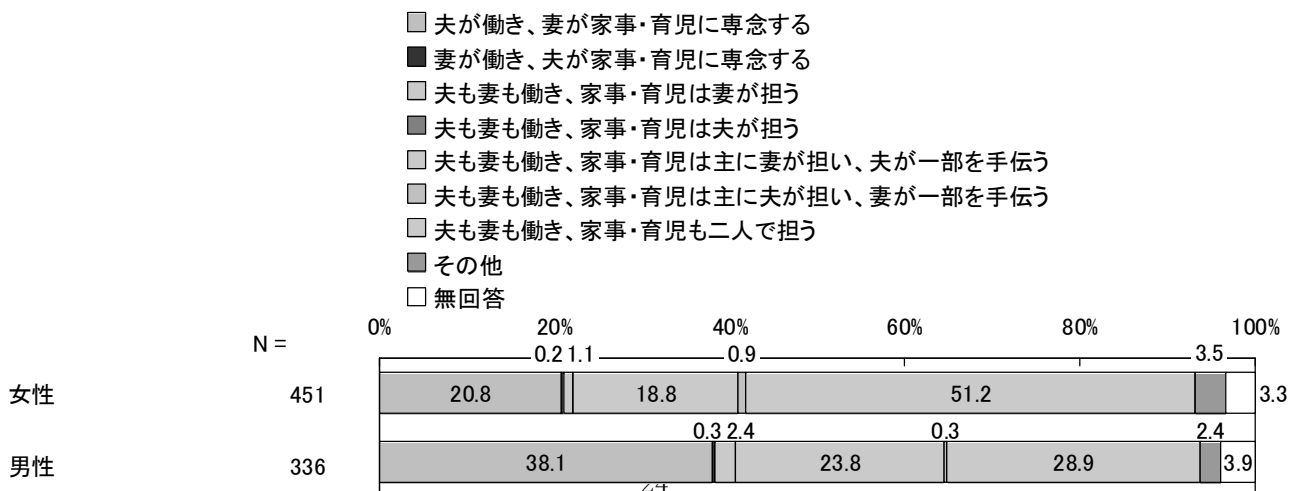
夫と妻の役割について—理想（全体）

理想とする夫と妻の役割について、N = 792
 では、「夫も妻も働き、家事・育児も二人で担う」の割合が41.4%と最も高く、次いで「夫が働き、妻が家事・育児に専念する」の割合が28.4%、「夫も妻も働き、家事・育児は主に妻が担い、夫が一部を手伝う」の割合が20.8%となっています。



夫と妻の役割について—理想（性別）

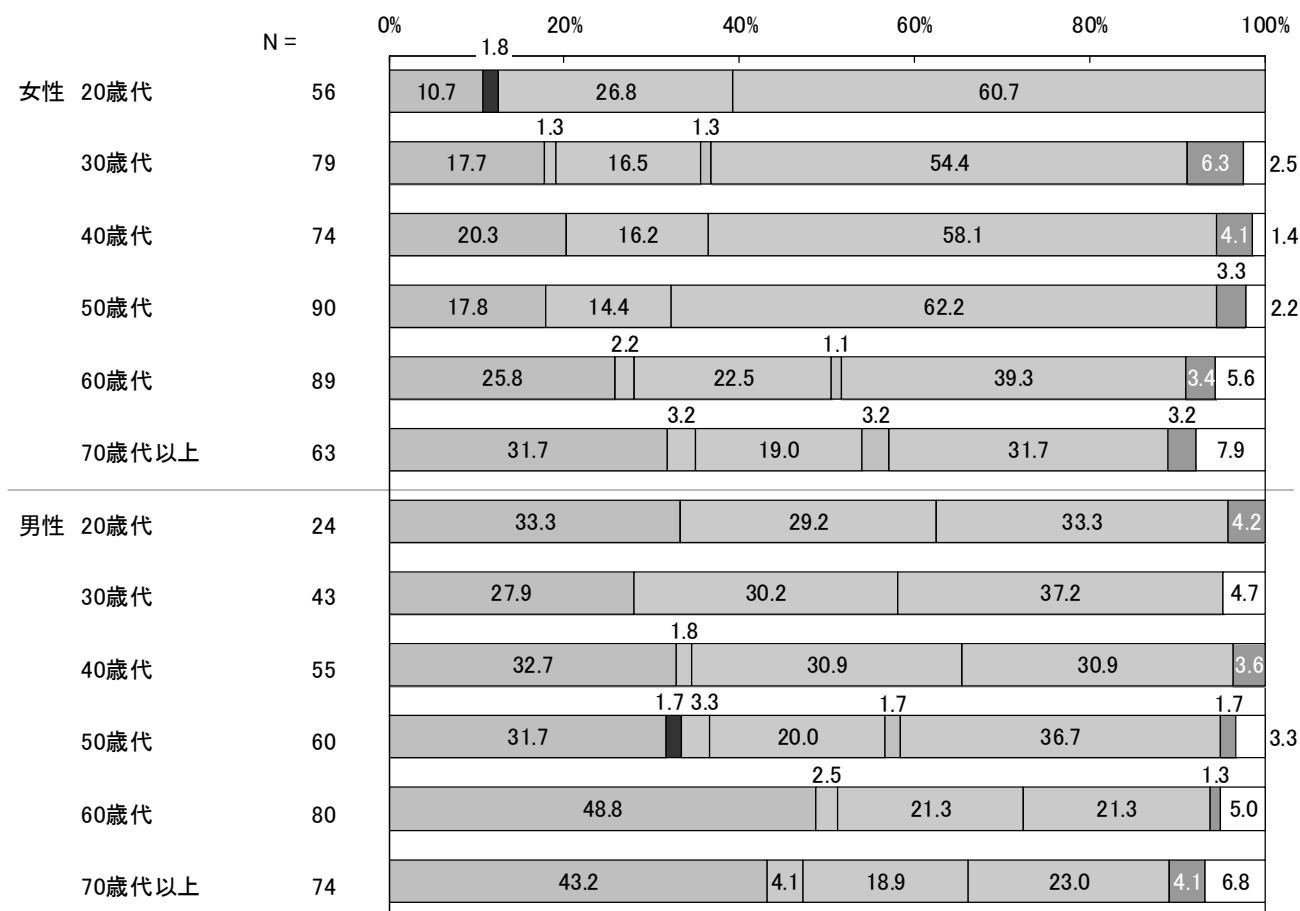
性別で比較すると、女性で「夫も妻も働き、家事・育児も二人で担う」の割合が高く、約5割となっています。一方、男性で「夫が働き、妻が家事・育児に専念する」の割合が高くなっており、依然、固定的性別役割分担意識が強く残っていることがうかがえます。



夫と妻の役割について—理想（性・年代別）

性・年代別でみると、他の年代に比べ女性の20歳代、50歳代で「夫も妻も働き、家事・育児も二人で担う」の割合が高く、6割を超えています。また、男性の60歳代で「夫が働き、妻が家事・育児に専念する」の割合が高く、約5割となっています。

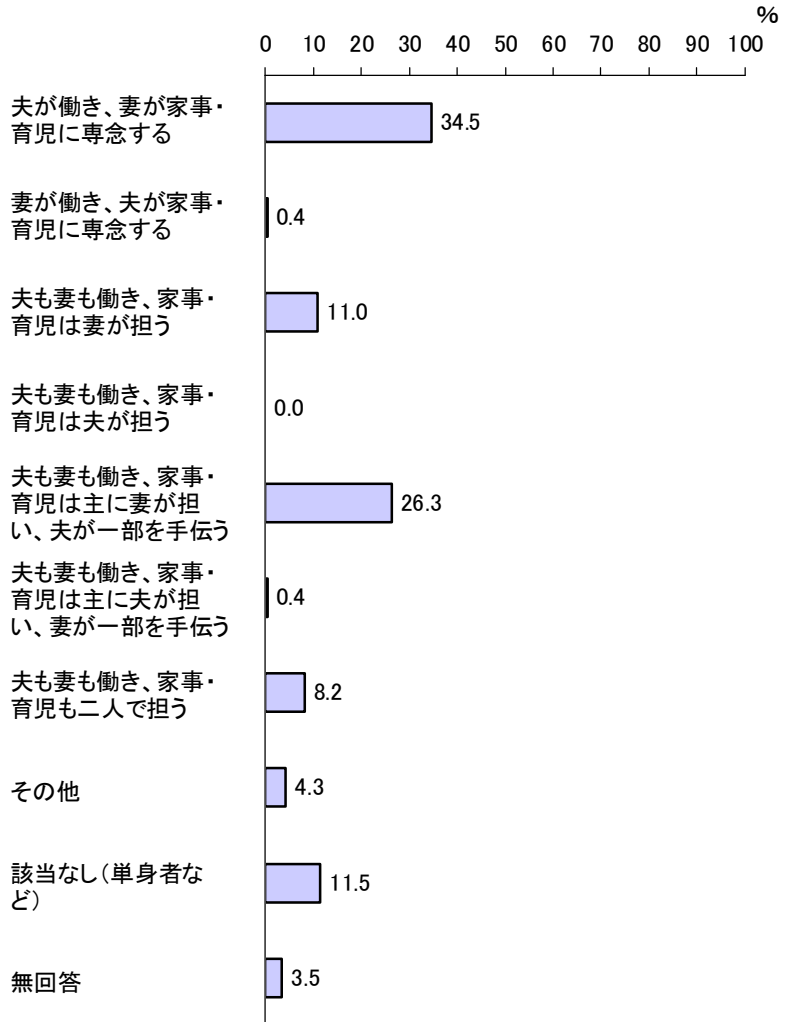
- 夫が働き、妻が家事・育児に専念する
- 妻が働き、夫が家事・育児に専念する
- 夫も妻も働き、家事・育児は妻が担う
- 夫も妻も働き、家事・育児は夫が担う
- 夫も妻も働き、家事・育児は主に妻が担い、夫が一部を手伝う
- 夫も妻も働き、家事・育児は主に夫が担い、妻が一部を手伝う
- 夫も妻も働き、家事・育児も二人で担う
- その他
- 無回答



問 12-1 夫と妻の役割について、あなたの家庭では、実際には、仕事と家庭のあり方はどれにあてはまりますか。既婚・未婚にかかわらずお答えください。
(あてはまるもの1つに○印)

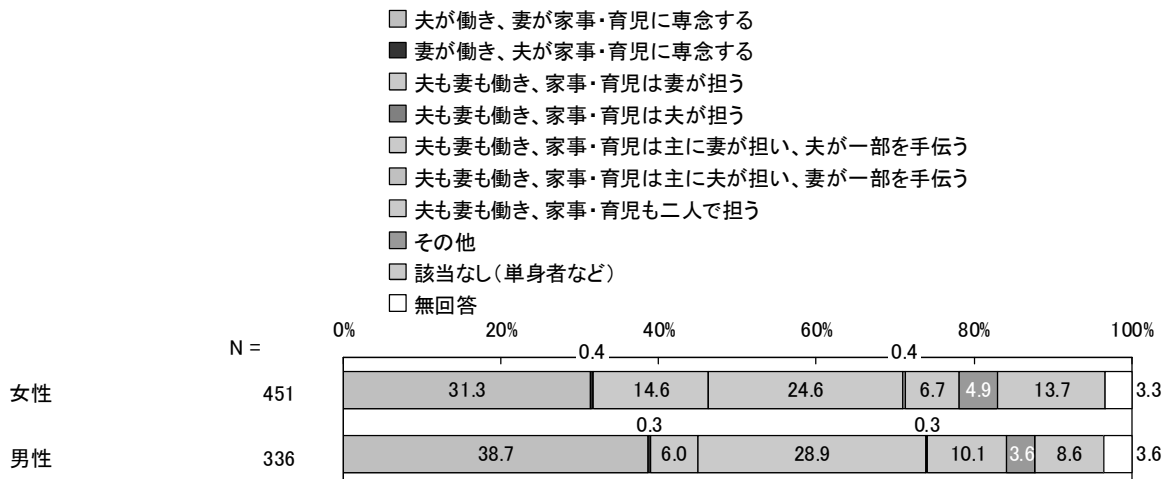
夫と妻の役割について—実際 (全体) N = 792

実際の夫と妻の役割については、「夫が働き、妻が家事・育児に専念する」の割合が34.5%と最も高く、次いで「夫も妻も働き、家事・育児は主に妻が担い、夫が一部を手伝う」の割合が26.3%、「夫も妻も働き、家事・育児は妻が担う」の割合が11.0%となっています。



夫と妻の役割について—実際 (性別)

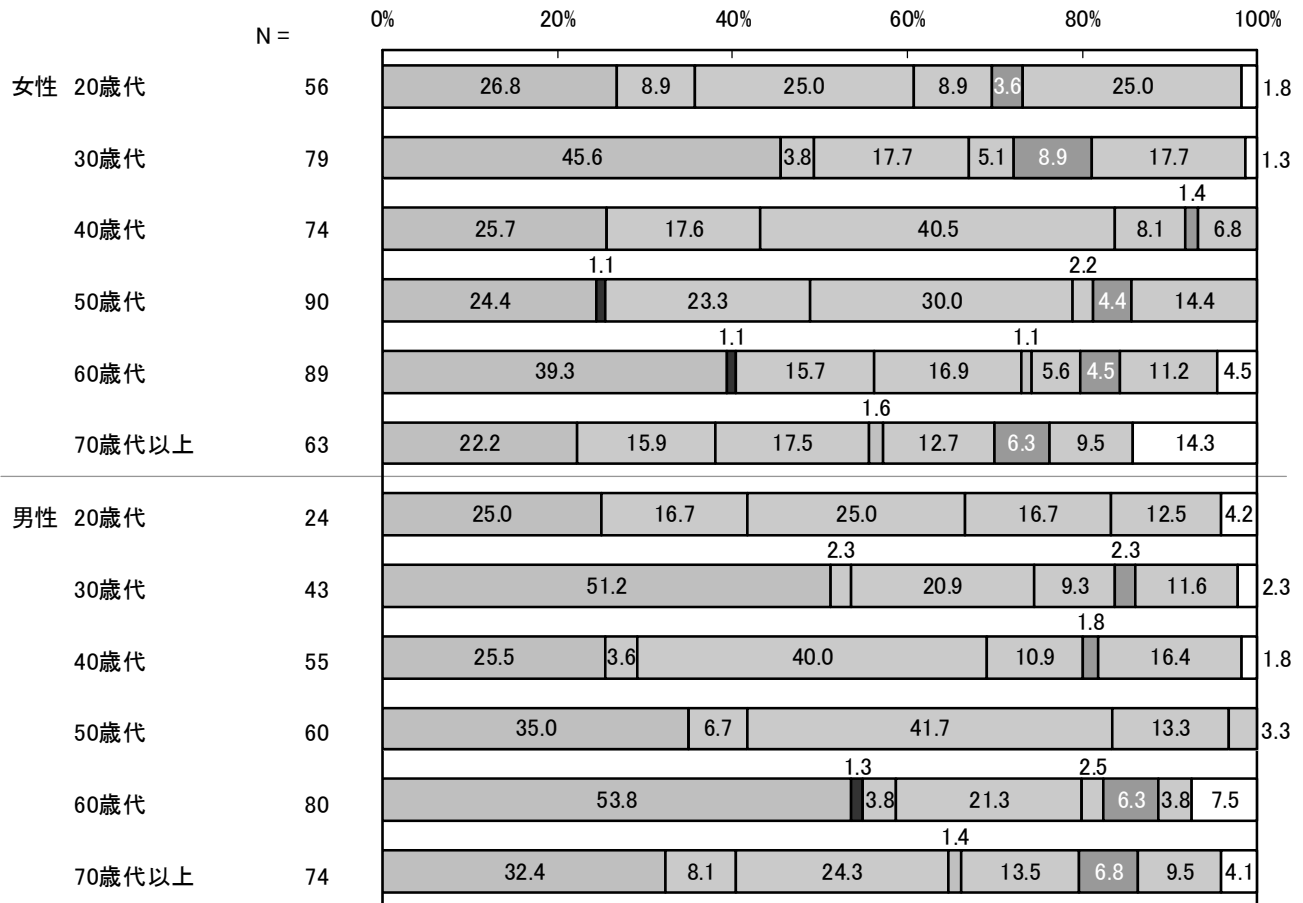
性別で比較すると、女性で「夫も妻も働き、家事・育児は妻が担う」の割合が高くなっています。また、男性で「夫が働き、妻が家事・育児に専念する」の割合が高くなっています。



夫と妻の役割について—実際（性・年代別）

性・年代別で見ると、他の年代に比べ女性の30歳代、男性の30歳代、60歳代で「夫が働き、妻が家事・育児に専念する」の割合が高く、約5割となっています。また、女性の40歳代、男性の40歳代、50歳代で「夫も妻も働き、家事・育児は主に妻が担い、夫が一部を手伝う」の割合が高く、4割を超えています。

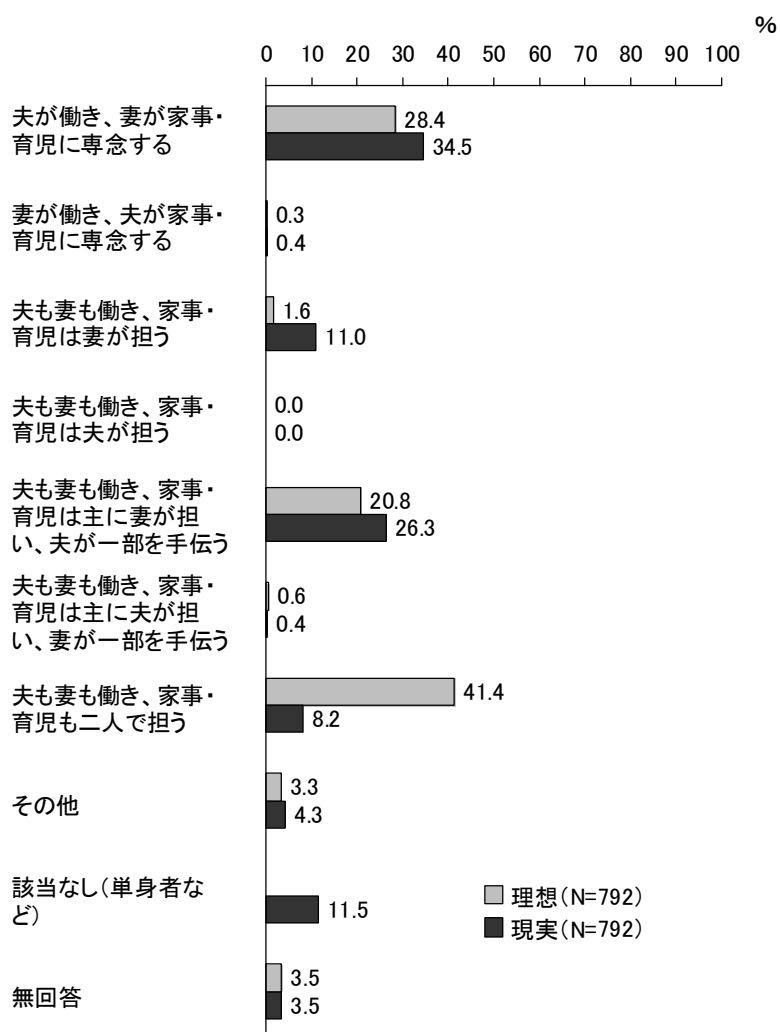
- 夫が働き、妻が家事・育児に専念する
- 妻が働き、夫が家事・育児に専念する
- 夫も妻も働き、家事・育児は妻が担う
- 夫も妻も働き、家事・育児は夫が担う
- 夫も妻も働き、家事・育児は主に妻が担い、夫が一部を手伝う
- 夫も妻も働き、家事・育児は主に夫が担い、妻が一部を手伝う
- 夫も妻も働き、家事・育児も二人で担う
- その他
- 該当なし(単身者など)
- 無回答



【理想と現実の比較】

夫と妻の役割について－理想と現実の比較（全体）

理想と現実を比較すると、「夫も妻も働き、家事・育児も二人で担う」の割合が理想に比べ現実で著しく低いなど、理想と現実には大きな差があることがわかります。

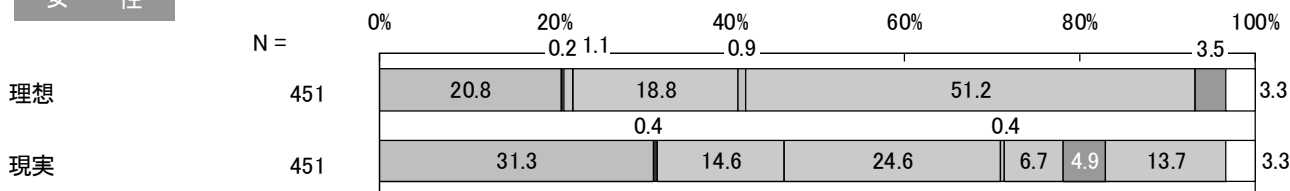


夫と妻の役割について－理想と現実の比較（性別）

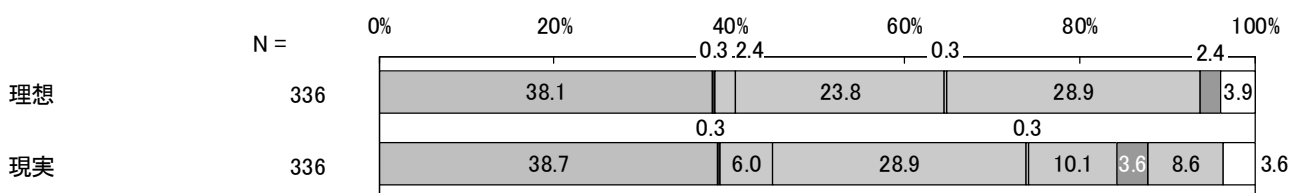
それぞれの性別で理想と現実を比較すると、特に女性で差異が大きく、理想に比べ現実の割合は「夫も妻も働き、家事・育児も二人で担う」で44.5ポイント低くなっています。

- 夫が働き、妻が家事・育児に専念する
- 妻が働き、夫が家事・育児に専念する
- 夫も妻も働き、家事・育児は妻が担う
- 夫も妻も働き、家事・育児は夫が担う
- 夫も妻も働き、家事・育児は主に妻が担い、夫が一部を手伝う
- 夫も妻も働き、家事・育児は主に夫が担い、妻が一部を手伝う
- 夫も妻も働き、家事・育児も二人で担う
- その他
- 該当なし(単身者など)
- 無回答

女 性



男 性



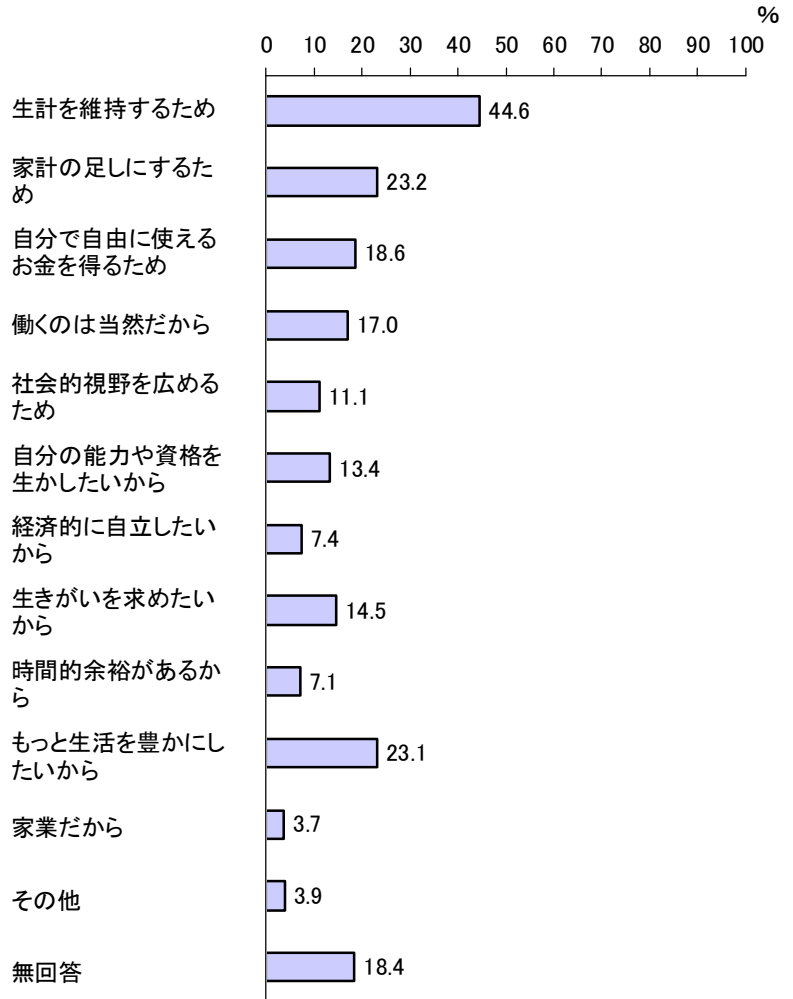
(5) 就業の目的

問 13 (現在働いている人、働きたいと思っている人にうかがいます。)
 あなたが働く目的は何ですか。(考え方に近いもの3つ以内に○印)

働く目的 (全体)

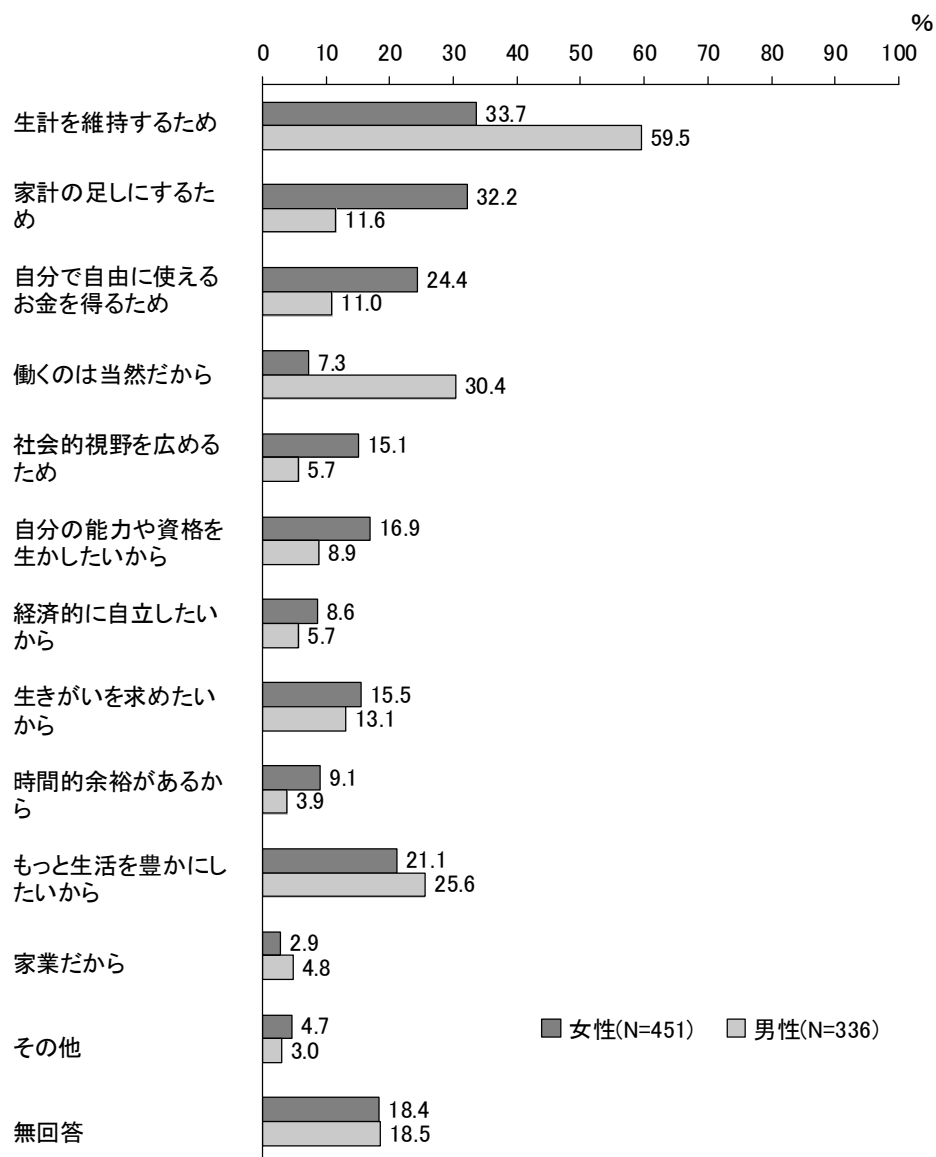
働く目的については、「生計を維持するため」の割合が 44.6%と最も高く、次いで「家計の足しにするため」の割合が 23.2%、「もっと生活を豊かにしたいから」の割合が 23.1%となっています。

N = 792



働く目的（性別）

性別で比較すると、女性で「家計の足しにするため」「自分で自由に使えるお金を得るため」「社会的視野を広めるため」「自分の能力や資格を生かしたいから」の割合が高くなっています。また、男性で「生計を維持するため」「働くのは当然だから」の割合が高くなっています。



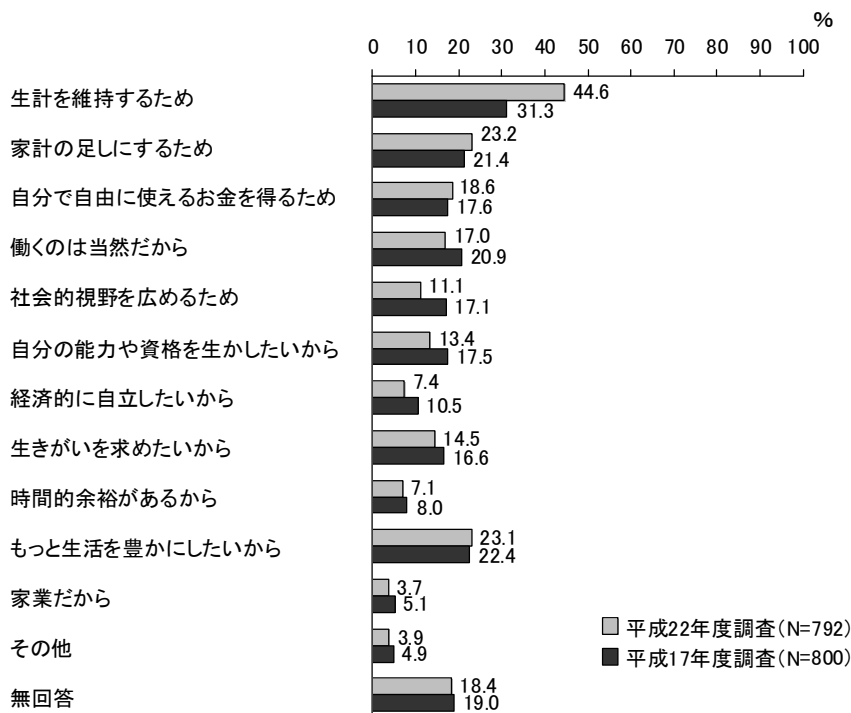
働く目的【平成 17 年度調査結果との比較】

平成 17 年度調査結果と比較すると、「生計を維持するため」の割合が高く、「社会的視野を広めるため」の割合が低くなっており、経済情勢の影響がうかがえます。

性別で平成 17 年度調査結果と比較すると、特に女性で「生計を維持するため」の割合が高くなっています。

参 考

働く目的【平成 17 年度調査結果との比較（全体）】



働く目的【平成 17 年度調査結果との比較（性別）】

単位：%

区分	生計を維持するため	家計の足しにするため	自分で自由に使えるお金を得るため	働くのは当然だから	社会的視野を広めるため	自分の能力や資格を生かしたいから
女性 平成 22 年度調査 (N=451)	33.7	32.2	24.4	7.3	15.1	16.9
女性 平成 17 年度調査 (N=487)	18.3	29.2	22.4	12.3	20.7	18.7
男性 平成 22 年度調査 (N=336)	59.5	11.6	11.0	30.4	5.7	8.9
男性 平成 17 年度調査 (N=313)	51.4	9.3	10.2	34.2	11.5	15.7

区分	経済的に自立したいから	生きがいを求めたいから	時間的余裕があるから	もっと生活を豊かにしたいから	家業だから	その他	無回答
女性 平成 22 年度調査 (N=451)	8.6	15.5	9.1	21.1	2.9	4.7	18.4
女性 平成 17 年度調査 (N=487)	10.9	17.5	10.9	17.9	4.9	4.1	20.5
男性 平成 22 年度調査 (N=336)	5.7	13.1	3.9	25.6	4.8	3.0	18.5
男性 平成 17 年度調査 (N=313)	9.9	15.3	3.5	29.4	5.4	6.1	16.6

※平成 17 年度調査の回答項目と内容が類似しているものを比較しています。

(6) 子どもの育て方

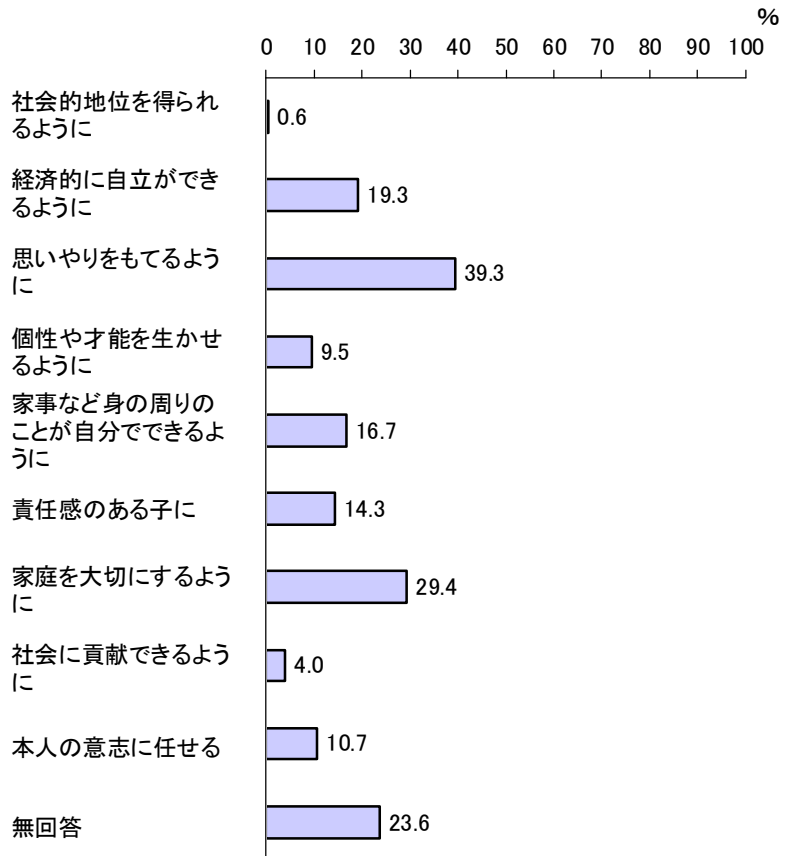
問 14 あなたは、将来を担う子どもたちがどのような生き方をしてほしいと思いますか。

(①、②のそれぞれ2つに○印)

①女の子に望むこと (全体)

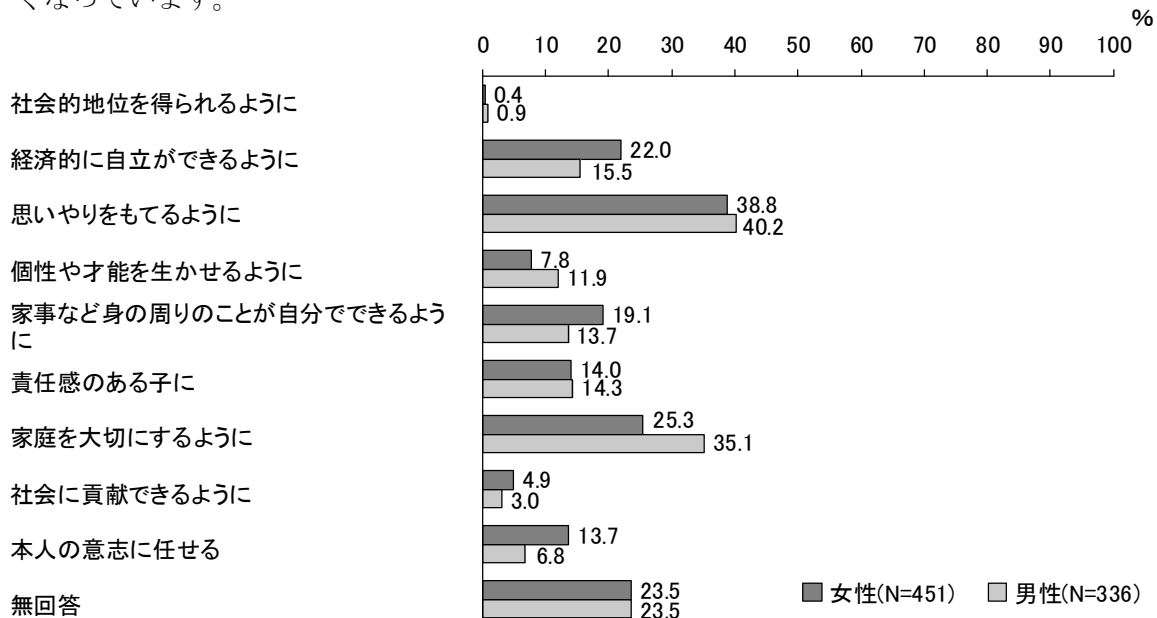
女の子に望む生き方については、N = 792

「思いやりをもてるように」の割合が39.3%と最も高く、次いで「家庭を大切にするように」の割合が29.4%、「経済的に自立ができるように」の割合が19.3%となっています。



女の子に望むこと (性別)

性別で比較すると、女性で「経済的に自立ができるように」「家事など身の周りのことが自分でできるように」の割合が高くなっています。また、男性で「家庭を大切にするように」の割合が高くなっています。



女の子に望むこと（性・年代別）

性・年代別で見ると、他の年代に比べ男女とも 30 歳代で「思いやりをもてるように」の割合が高くなっています。また、男性の 50 歳代、60 歳代で「家庭を大切にするように」の割合が約 4 割となっています。

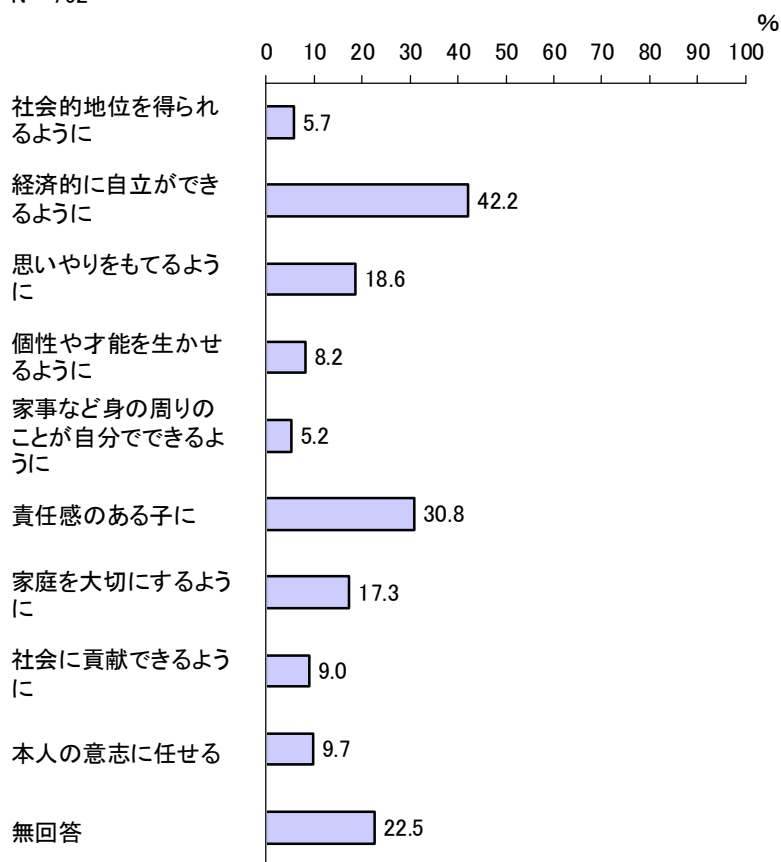
単位：％

区分	有効回答数 (件)	社会的地位を得られるように	経済的に自立ができるように	思いやりをもてるように	個性や才能を生かせるように	家事など身の周りのことが自分でできるように	責任感のある子に	家庭を大切にするように	社会に貢献できるように	本人の意志に任せる	無回答
女性 20 歳代	56	1.8	5.4	46.4	10.7	14.3	16.1	21.4	8.9	17.9	21.4
30 歳代	79	—	27.8	54.4	6.3	17.7	10.1	31.6	2.5	16.5	13.9
40 歳代	74	—	24.3	36.5	17.6	28.4	13.5	27.0	2.7	18.9	13.5
50 歳代	90	—	33.3	36.7	6.7	21.1	15.6	18.9	11.1	10.0	22.2
60 歳代	89	—	18.0	39.3	3.4	14.6	16.9	29.2	3.4	9.0	30.3
70 歳代以上	63	1.6	15.9	17.5	3.2	17.5	11.1	22.2	—	12.7	41.3
男性 20 歳代	24	—	8.3	37.5	25.0	16.7	8.3	29.2	4.2	12.5	20.8
30 歳代	43	—	7.0	65.1	14.0	23.3	16.3	32.6	4.7	11.6	7.0
40 歳代	55	—	20.0	47.3	12.7	16.4	14.5	32.7	5.5	7.3	20.0
50 歳代	60	3.3	18.3	41.7	18.3	18.3	13.3	38.3	1.7	8.3	16.7
60 歳代	80	1.3	22.5	35.0	8.8	7.5	18.8	40.0	2.5	3.8	23.8
70 歳代以上	74	—	9.5	25.7	4.1	8.1	10.8	32.4	1.4	4.1	41.9

②男の子に望むこと（全体）

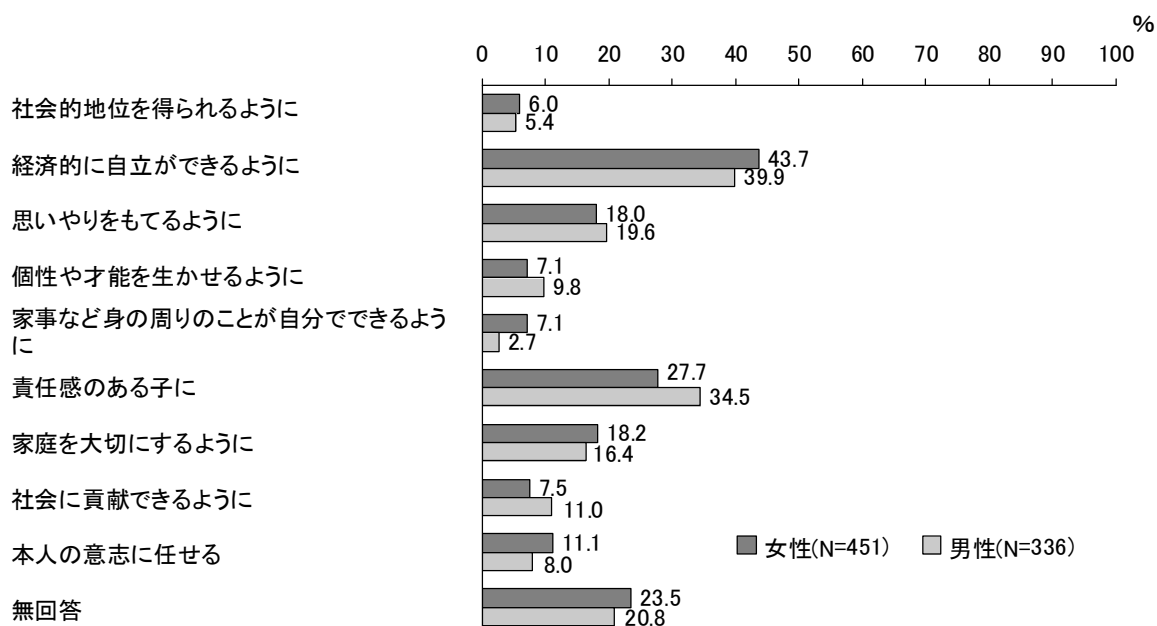
男の子に望む生き方については、N = 792

「経済的に自立ができるように」の割合が 42.2%と最も高く、次いで「責任感のある子に」の割合が 30.8%、「思いやりをもてるように」の割合が 18.6%となっています。



男の子に望むこと（性別）

性別で比較すると、男性で「責任感のある子に」の割合が高くなっています。



男の子に望むこと（性・年代別）

性・年代別でみると、他の年代に比べ女性の40歳代、男性の50歳代で「経済的に自立ができるように」の割合が高く、約6割となっています。また、女性の20歳代、30歳代で「家庭を大切にするように」の割合が、男性の20歳代と30歳代で「責任感のある子に」の割合が高くなっています。

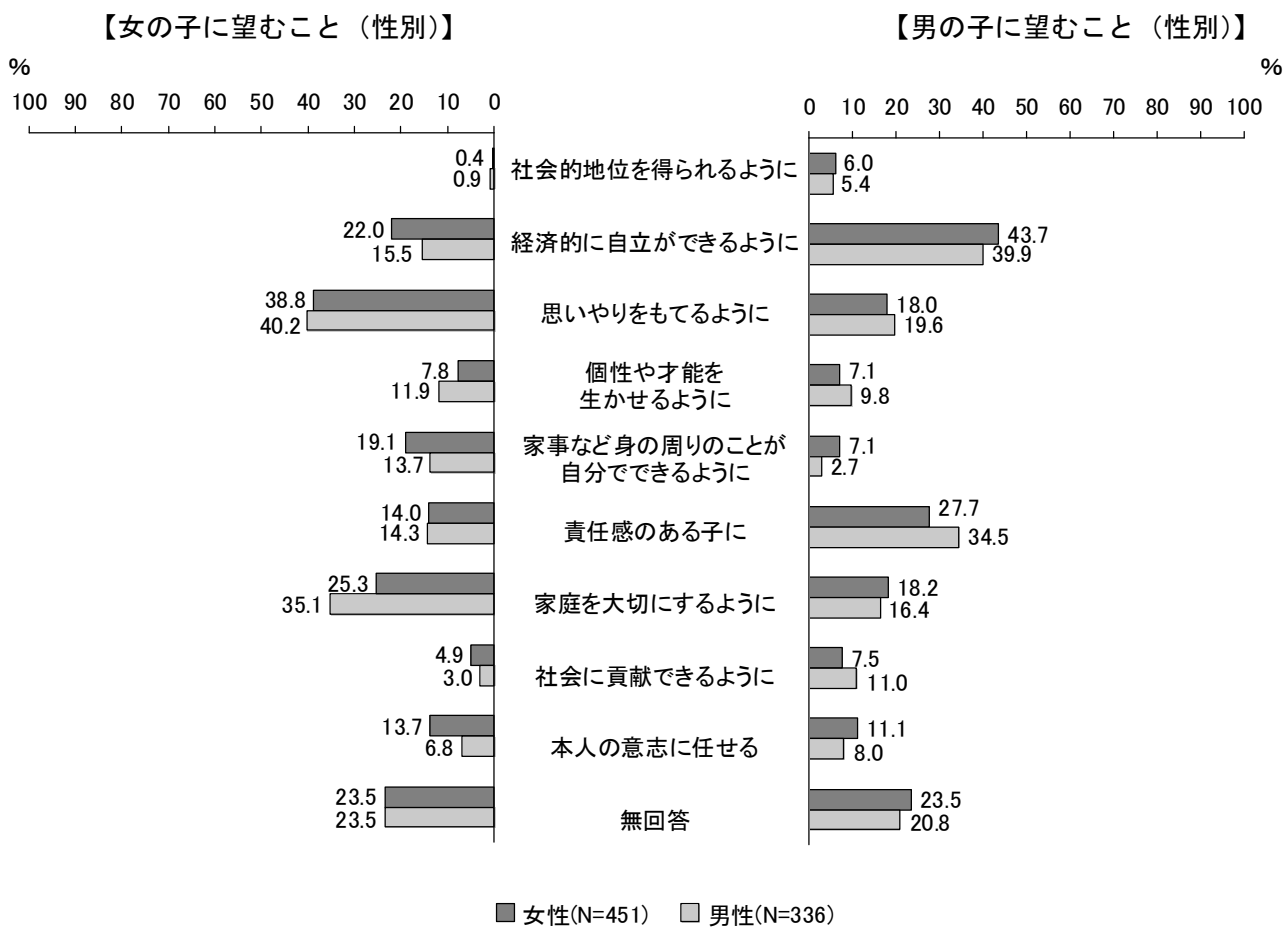
単位：%

区分	有効回答数(件)	社会的地位を得られるように	経済的に自立ができるように	思いやりをもてるように	個性や才能を生かせるように	家事など身の周りのことが自分でできるように	責任感のある子に	家庭を大切にするように	社会に貢献できるように	本人の意志に任せる	無回答
女性 20歳代	56	3.6	25.0	30.4	8.9	1.8	25.0	26.8	5.4	12.5	23.2
30歳代	79	6.3	46.8	36.7	5.1	10.1	16.5	29.1	2.5	13.9	13.9
40歳代	74	6.8	62.2	13.5	12.2	8.1	28.4	18.9	6.8	14.9	12.2
50歳代	90	8.9	37.8	16.7	8.9	11.1	30.0	12.2	18.9	6.7	23.3
60歳代	89	4.5	52.8	7.9	4.5	5.6	38.2	11.2	5.6	9.0	28.1
70歳代以上	63	4.8	30.2	4.8	3.2	3.2	25.4	14.3	3.2	11.1	42.9
男性 20歳代	24	8.3	20.8	29.2	8.3	—	41.7	8.3	4.2	20.8	20.8
30歳代	43	7.0	23.3	37.2	18.6	4.7	39.5	25.6	4.7	14.0	9.3
40歳代	55	5.5	40.0	32.7	5.5	1.8	38.2	20.0	10.9	5.5	18.2
50歳代	60	6.7	63.3	8.3	15.0	8.3	30.0	23.3	11.7	11.7	8.3
60歳代	80	6.3	41.3	16.3	12.5	1.3	31.3	12.5	15.0	5.0	23.8
70歳代以上	74	1.4	35.1	9.5	1.4	—	33.8	9.5	12.2	2.7	36.5

【「女の子に望むこと」と「男の子に望むこと」の比較】

「女の子に望むこと」と「男の子に望むこと」について—比較（性別）

女の子に望むことと男の子に望むことを比較してみると、女の子に対しては、「思いやりをもてるように」「家庭を大切にするように」が高く、男の子に対しては「経済的に自立ができるように」「責任感のある子に」が高いといったように、子どもの性別によって期待されることに違いがあることがわかります。

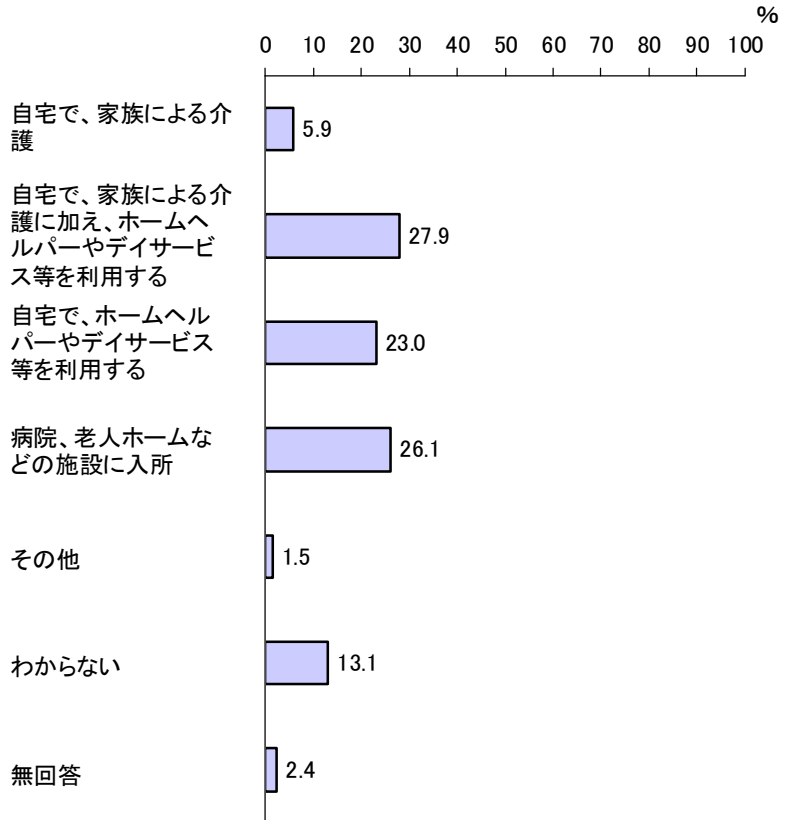


(7) 希望する介護

問 15 あなた自身が高齢になって介護が必要になったとき、どのように介護をしてほしいですか。
(あてはまるもの1つに○印)

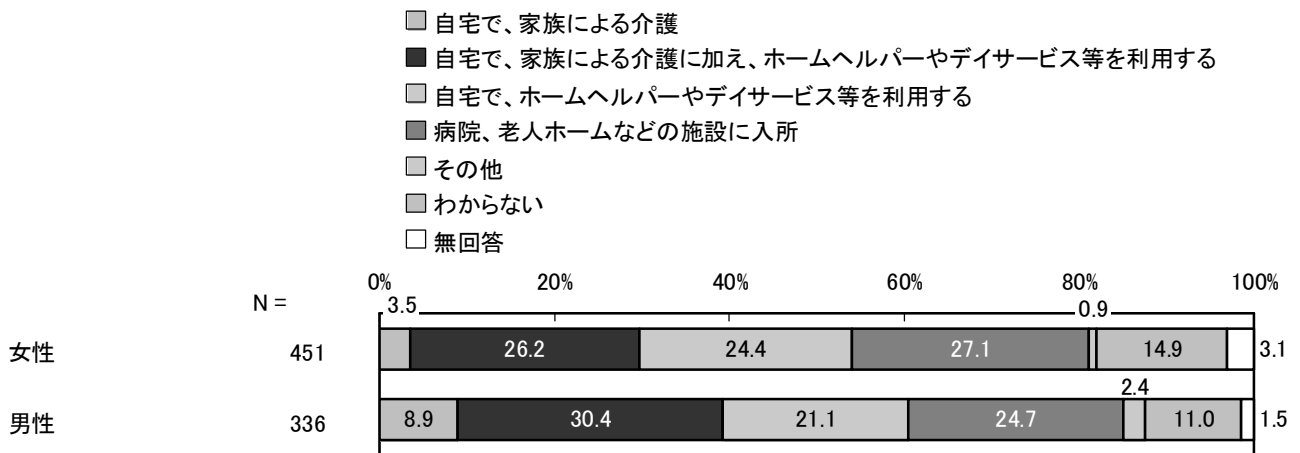
希望する介護（全体）

介護が必要になったときに望む介護の形態については、「自宅で、家族による介護に加え、ホームヘルパーやデイサービス等を利用する」の割合が27.9%と最も高く、次いで「病院、老人ホームなどの施設に入所」の割合が26.1%、「自宅で、ホームヘルパーやデイサービス等を利用する」の割合が23.0%となっています。



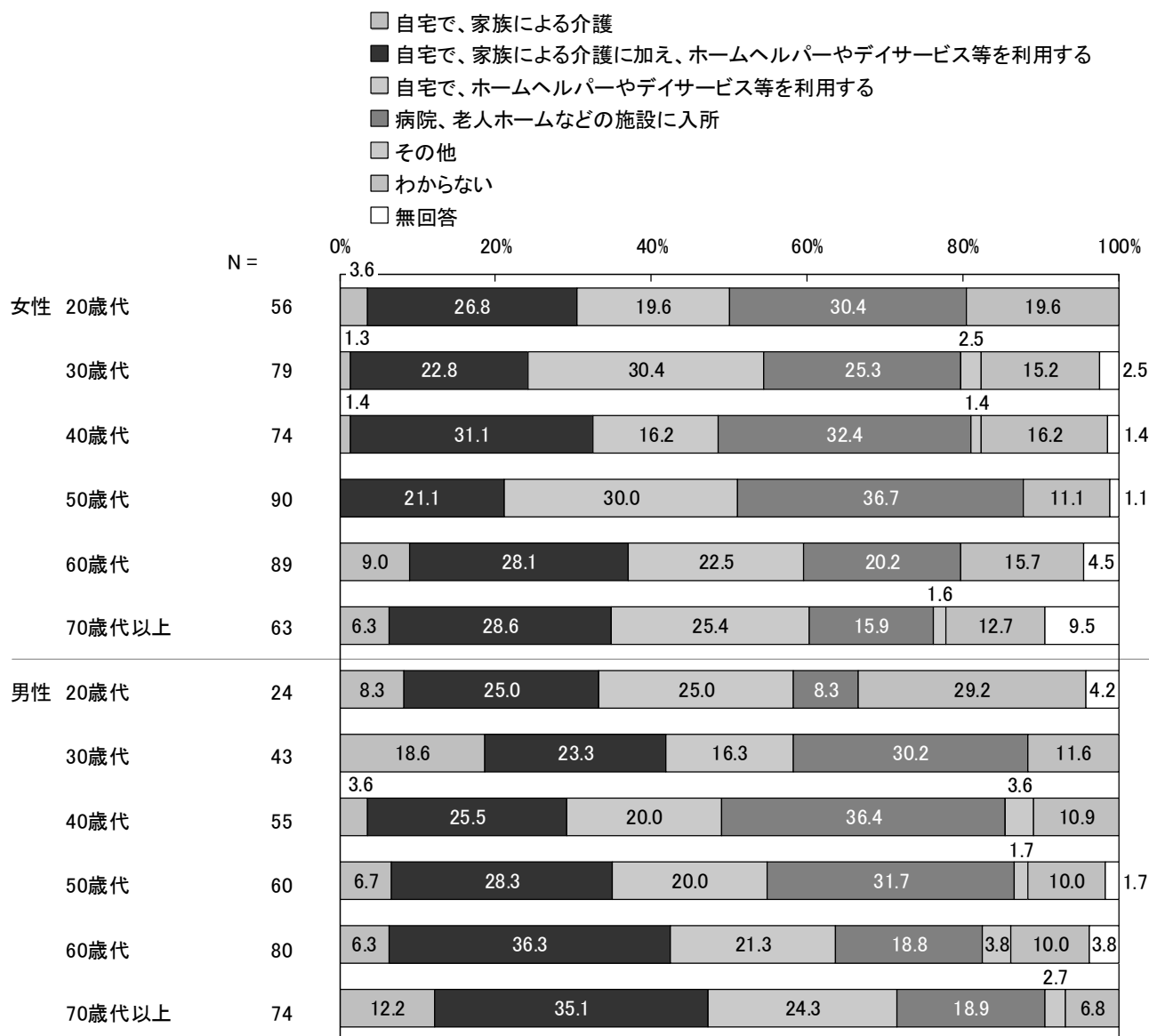
希望する介護（性別）

性別で比較すると、男性で「自宅で、家族による介護」の割合が高くなっています。



希望する介護（性・年代別）

性・年代別で見ると、他の年代に比べ女性の50歳代、男性の40歳代で「病院、老人ホームなどの施設に入所」の割合が高くなっています。また、女性の30歳代、50歳代で「自宅で、ホームヘルパーやデイサービス等を利用する」の割合が、男性の30歳代で「自宅で、家族による介護」の割合が高くなっています。



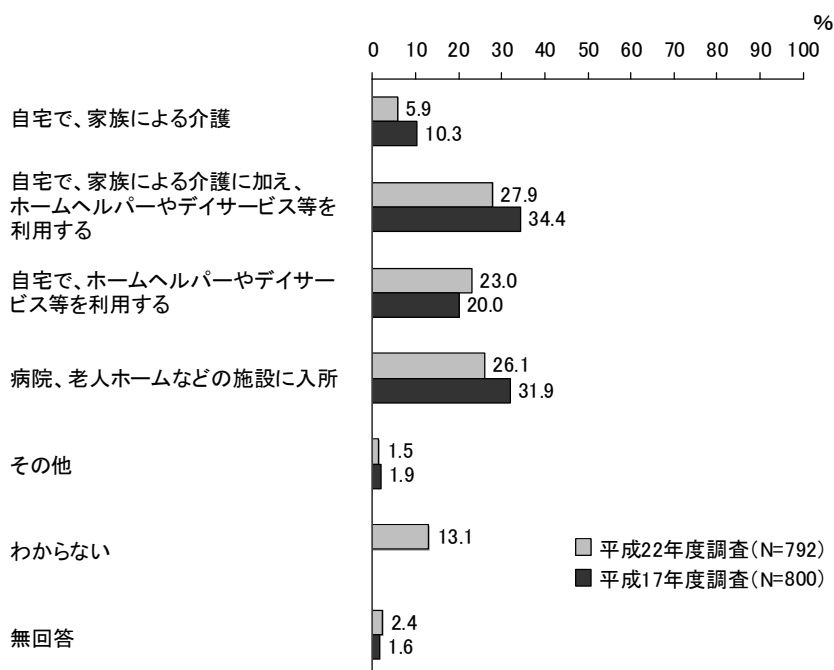
希望する介護【平成 17 年度調査結果との比較】

平成 17 年度調査結果と比較すると、「自宅で、家族による介護に加え、ホームヘルパーやデイサービス等を利用する」「病院、老人ホームなどの施設に入所」の割合が低くなっています。

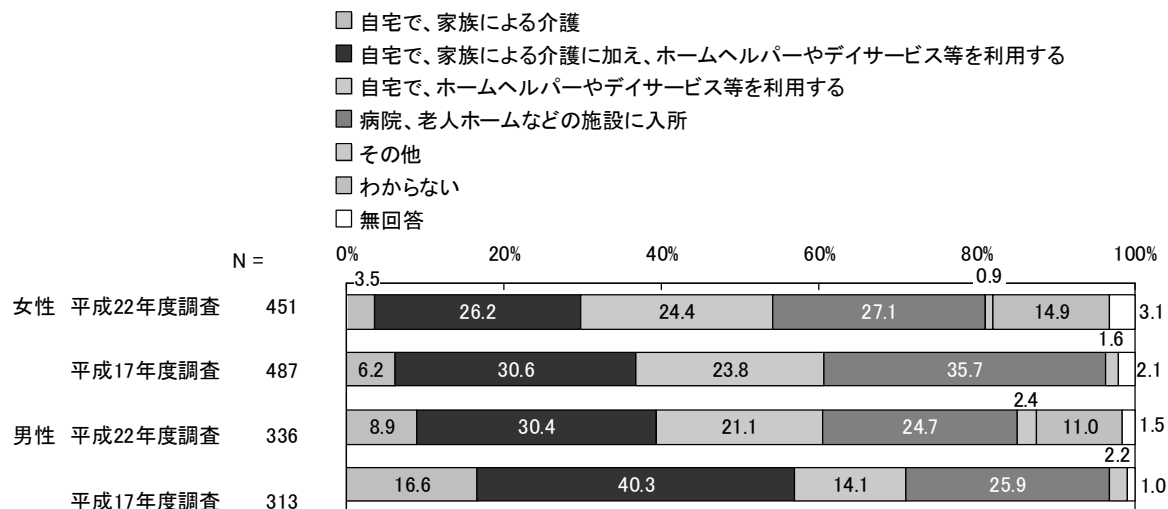
性別で平成 17 年度調査結果と比較すると、特に男性で「自宅で、家族による介護」「自宅で、家族による介護に加え、ホームヘルパーやデイサービス等を利用する」の割合が低く、「自宅で、ホームヘルパーやデイサービス等を利用する」の割合が高くなっています。

参 考

希望する介護【平成 17 年度調査結果との比較（全体）】



希望する介護【平成 17 年度調査結果との比較（性別）】



※平成 17 年度調査の回答項目と内容が類似しているものを比較しています。ただし、平成 17 年度調査の回答項目には「わからない」に類似する項目はありません。